

Dog & Life

# 犬と家族の絆



「ムダ吠えで、ご近所の目が気になる・・・」



「じっとしてられず咬みぐせもあり、毛繕いやスキンシップも出来ない・・・」



「散歩に出れば引っ張られ、私の言う事などまったく聞かず・・・」



「大きな問題はないけど、もう少しおりこうさんになってくれたら・・・」



「もっと楽しく遊んだり散歩したり、家族と一緒に旅行も連れて行きたい・・・」

「だったらドッグトレーナー（訓練所）にあずければいいし、最近ではムダ吠え防止や咬みぐせ防止のしつけグッズがあるじゃない・・・」

そんな声も聞こえてきそうです。たしかに訓練所からおりこうさんになって帰ってくるでしょうし、困った時のグッズも効果はあると思います。




しかし、それで一件落着でしょうか？ 答えは《NO！違います。》それらは全て対処療法で、根本の解決にはなっていません。また効果も一時的で、かえって悪くなる場合もあります。なぜでしょう？・・・。 答えはそれらの《問題行動の原因》が解決されていないからです。

猛烈に吠える、歯をむき出し唸る、咬み付く、壊す、破る、散歩で引っ張る。「来い・待て・座れ・ふせ」何を言っても無反応。それらは各々別の原因があるようにも思われがちですが、主な原因は・・・

**飼い主と家族がリーダーシップをとれていなかった！** です。



## もくじ 目次

	プロフィールと前書き	3～4ページ
	①ドッグトレーナーが教える裏技（テクニック）は本当に必要？	5～6ページ
	②言うことを聞かない犬は訓練所に出せばいい？	7～8ページ
	③犬に対するリーダーシップとは？	9～13ページ
	④リーダーシップを確立する！	14～21ページ
	⑤体罰は有効か？ （嫌な臭い、苦い味スプレーなどのしつけグッズ含む）	22ページ
	⑥指示を出し行動させる （座れ、ふせ、待て、来い、その他応用編）	23～30ページ
	⑦散歩・運動・遊び	31～35ページ
	⑧ごはんは一日何回？量は？時間も決める？	36～39ページ
	⑨屋内飼いででもハウスは必要	40～42ページ
	⑩トイレのしつけ	43～44ページ
	⑪ちょっとした変なクセも笑ってられない	45～46ページ
	用品サイト紹介・犬の留守番時の気晴らし	47ページ
	子犬のしつけ解説編	48～49ページ
	最後に大切な おさらい	50ページ



## プロフィールと前書き

わが家の愛犬

名前：リッキー

犬種：ゴールデンレトリバー

年齢：執筆時5才

体重：29kg

Dog&Life  
horikawa



こんにちはー🐾

著者

私はプロのドッグトレーナーでもなく、そういった方々の直接の指導も受けたことはありません。ドッグトレーナーは著書の中で様々なテクニックを披露し、ご商売上の目論見もあるでしょうが、私には無縁で皆様と同じ一飼い主です。

だからこそ失敗も沢山し、皆様の気持ちや現実もよく分かります。そして私に出来ることは皆様にも容易に出来るでしょうし、本当に大事な事だけをお伝えしたいと思い、著作を決意いたしました。

写真を見て、こう思われた方もいらっしゃると思います。

「その犬はゴールデンだから頭がいいだろう」「そうそう、盲導犬とかで活躍してる」  
 ……まったく違いました（笑）。大問題児でした。お腹が空いたり、かまってほしかったり、知らない人・犬が通れば吠えまくる。ケージ（囲い）やケージの中の物は咬んで壊しまくる。散歩に出れば引っ張り続け、私が違う方向へ引っ張ろうとすると唸り、私のズボンを咬んで引っ張り穴だらけ……。そして案の定、ご近所から「吠え声がうるさい!」「……まずい! どうしよう……」「……そうだ! これしかない!」  
 ペットショップへ行き、グッズを購入しました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、首輪のようにして付けるもので犬が吠えたとセンサーが感知して、「プシューッ」と犬が嫌がる臭いが出る物です。バツグンの効果。しばらく吠えなくなりました・・が!  
 犬は適応力に優れた動物です。段々「プシューッ」に慣れてきてまた少し吠えるようにな

ってきました。また、エサの時間など外さなければいけない時もあり、外すとまた激しく吠えるありさま……。他にも天罰方式で空き缶を投げてみたり、色々やってみたのですがあまり良い結果は得られませんでした……。「ハ〜……。」「ため息ばかり。

そしてあきらめ半分で、「もう一度基本からやり直そう」、と《リーダーウォーク》（リーダーウォーク：本文で詳しく述べますが、一般的なしつけ方法の基本です。犬にリードを付けて歩くのですが、一切声をかけず・触らず・目も合わせず、犬が飼い主より前に出ようとしたらすかさず180度反対方向へ急転換する。あるいは急に止まったり、90度曲がってみたり。常に飼い主が主導で歩く手法）を徹底することにしました。以前もやっていたのですが中途半端で、思わず怒鳴ってしまったり「ヨシヨシ」と声をかけてしまっていました。また私もイライラがつのり、力まかせに引っ張ったりしていました。「今回は徹底しよう！」鉄の意志で望みました。すると散歩初日から明らかに変わり、日を追うごとに引っ張る回数が減り、最後にはほとんど引っ張らなくなりました。あまりに引っ張る感触が無いので、「首輪が切れてどこか行ってしまったんじゃないか」と思い、ふと横をみると「ニタ〜」と笑っているかのように私を見ながらピッタリ脇に付いて歩いていました。うれしくて散歩がものすごく楽しくなっていました。そしてある日、ふと気づきました。「！あれ！そういえば最近ほとんど吠えなくなった！あれ！咬んだり壊したりしてない！吠えぐせと咬みぐせは最近何にも対処療法してなかったのに！！」

「ハッ」と我に返りました。「そうか……。そうだったのか……」

原因はただひとつ、愛情あるリーダーシップが取れていなかったただけでした。

「僕や家族のリーダーシップが無かったから、お前は不安になりストレスもたまり、問題行動を起こしていたんだね……。それなのに無意味に大きな声で叱ったり、無理やり引っ張ったり、嫌がるお前に臭いが噴射される首輪を付けたりして更に信用を失った……」

胸に何か込み上げてくるものがあり、私をジッと見つめるリッキーを見て涙が出そうになりました。その日以来、「更に強い意志と愛情でリッキーと接しよう……」と心に誓いました。





## ①ドッグトレーナーが教える裏技（テクニック）は本当に必要？

以前テレビ（衛星放送）の動物番組で、ペットコンテストのようなものがありました。その番組の内容は、芸をするペットと指示を出す人間のチームに、審査員が得点を付け順位を決めるというアメリカの番組でした。

犬はもちろん豚や猫、鳥やネズミもいました。指示を出す人間のほうは、男性・女性、子供、ご老人など一般の飼い主、他にはオーナー（飼い主）に雇われたトレーナーもいました。指示の出し方も様々で、フード（餌ややつ）を見せながら誘導する、上手くできたらクリッカー（「パツ」と音が出る小道具）を鳴らす、大声で叫ぶ、大げさなアクションで褒める、色々あり興味深かったです。

そして番組は進んでいき、最後に予選を高得点で勝ち抜いてきた二チームが登場しました。一方はラブラドルレトリバーとプロのトレーナー（飼い主は別にいると言っていました）のチームで、フードやクリッカーを巧みに使い細かく難しい芸をさせていました。もう一方のチームはカウボーイハットをかぶった普通のおじさんと雑種犬でした。おじさんはフードもやらず小道具も一切無く、短い普通の言葉と軽いジェスチャーだけでしたが、その雑種犬は片時も飼い主から目をそらさず、うれしそうなキラキラした目で指示を待ち、指示が出るととても素早く反応して、こちらのチームもとても素晴らしい芸を披露しました。

いよいよ結果発表ですが、私はてっきり「雑種犬のほうが可愛らしかったけど、プロのトレーナーのほうがいっぱやテクニックで難しい動きをさせていたから、審査員はこっちを選ぶんだろうな」と思っていました。しかし優勝したのはおじさんと雑種犬でした。審査員は皆口々に「とても可愛かった」と言い、理由を聞かれ「飼い主と犬の主従関係や愛情を強く感じた」と言っていました。報酬で雇われたトレーナーと着飾った犬よりも、普段着のおじさんと毛並みがキレイでもなく体格も普通のどこにでも居そうな雑種犬を選んだのです。普通の動物コメディ番組だと思っていたのですが感動しました。欧米



では犬を同伴犬として認識し、その文化や研究も深く動物虐待に対する懲役刑や罰金刑も非常に厳しいです。アメリカの動物警察の番組を見ていると、犯罪者に対し「そこまですか」と言うくらい厳罰が下されます。そういう高くて深い認識があるからこそ先ほどの番組の審査結果となるのですね。

さて先ほどの番組ですが司会者が最後に、おじさんに「素晴らしい！どんな特別な方法で訓練したの？」とインタビューしました。私も「すごい裏技があるのかな？」と、ちょっと期待したのですが、おじさんはサバサバと「何もしてないよ。一緒に遊んでたうちの間にさそうだった。でもリーダーは僕だとシッカリ教えてるよ」と語っていました。

その番組に勇気づけられ、私も「あきらめず頑張ろう！」と、リッキーの問題児時代に思ったものです。



## ②言うことを聞かない犬は訓練所に出せばいい？

以前、私の知り合いがこう言っていました。

「うちの犬が最近また言う事を聞かなくなってきたから、もう一度訓練所に出そうかな・・・」

話を聞いていると、問題行動があり以前も訓練所に出したことがあったようです。その当時、我が家のリッキーも大問題児時代の真っ盛りでしたので、私のほうが訓練所に出したい気分でした。（笑い）しかしその人の話では、以前も訓練所に出してまだダメということは、「その家庭に問題があるのでは？」とも思いました。だからと言って原因がはっきり分かるわけでもなく、大問題児を抱えた私が偉そうに言える状況でもなかったので口が裂けてもそんな事は言えませんでした。（笑い）

たしかに訓練所に出せば、良い子になって帰ってくるでしょう。ドッグトレーナーはプロです。本やDVDなどで紹介されているように、様々なテクニックや裏技でキッ

チリ仕上げてくるでしょう。し・か・し！！問題は我が家に帰って来てからです。

訓練所では徹底的にトレーナーに服従させ、吠えればその対処法、咬めばその対処法をたたき込まれるでしょう。ですので犬はしばらくそれを覚えていますので当分おりこうさんになるのですが、いざ我が家に帰って飼い主と家族が100%プロのトレーナーと同じ事が出来るでしょうか。非常に難しいですし、もし出来たとしてもあくまで吠えた時の対処法、咬んだ時の対処法で症状を押さえ込んでいるだけなのです。人間の子供でも同じでしょう。怖いことがあって泣いたり叫んでいる時に「ダメ！」と言って叱ったり、「オヤツあげるからだまりなさい！」と言って落ち着くでしょうか？そんな時は「怖くないよ。心配ないよ。」と言って抱きしめてあげるほうがはるかに良いですね。もちろん人間の子供のしつけ方と《犬に対するリーダーシップ》（次の章で詳しく述べます）に違いはありますが根底の意味は同じです。

そしてそれ以前に、皆様が自分の子供が「聞き分けがないから」と言って幼い子供をお金を払って施設にあずけるでしょうか？またお子様がいらっしゃらない方でも、自分が子供だったとして同じ事をされたら……。どんなに悲しくて不安でしょうか。たしかに犬の感じ方としては若干違って、フレンドリーで好奇心旺盛ですから訓練所の人達に会えばその時は喜ぶかもしれませんが、ずっと一緒に暮らしてきた家も家族もいないわけですから不安や戸惑いはあるはずです。少しでも家族（犬）の不安を無くしてあげるようにすることもリーダーの心ではないでしょうか。

犬と言えど表情はあります。我が家のリッキーも同じですが、以前無駄吠え防止の首輪を付けている時の悲しくて不安で緊張した表情が今でも忘れられません。大問題児時代、目に輝きは無く引きつった表情でしたが、人間との信頼関係を感じている今、プロフィールの写真でもお分かりいただけたと思います。うれしそうな穏やかな表情で楽しく元気に暮らしています。無論、私とその家族も同じです。

犬のしつけと言えは「怖い」「かわいそう」「分からない」「めんどくさい」と、「ドッグトレーナーさんにおまかせ」と言う方もいらっしゃるかも知れません。しかし

飼い主さんが自分で勉強し、観察し、実践し、試行錯誤・喜怒哀楽のなかで人間と犬が共に学び成長していく過程にこそ、犬と暮らす本当の意味があるのではないのでしょうか。

(注)

大型犬等を飼われていて、ご家族が女性だけ・ご年配の方だけで、どうしても手に負えない場合は安全を考慮して訓練所の力を借りることもやむをえないと思います。ただし、「訓練所にあずける」のではなく、飼い主さんとご家族が一緒に行き、「犬の扱い方を飼い主さんが学ぶ」というものが良いと思います。



では、次ページから具体的に解説していきますが、手法のみを断片的にとらえないで下さい。例えば、最後まで読まれずに、「〇〇手法が効くんだな・・・」と知るとそれだけを初日から強引にやり続け失敗・・・という方がいらっしやいます。必ず最後まで読んでいただき、本書の販売ホームページ・Q&Aサイトを熟読され、やるべき事・気持ちを整理されてから少しずつ展開して行ってください。

特に子犬の方、成犬でも家に来ただけ・・・というご家庭は、**慣れ**を重視してください。絶対に最初から結果を求めず、しばらくは「**教える期間で結果が出る期間ではない**」とお考えください。特に子犬は知能が低すぎます。数か月かけて慣れ・関係作り・物事を覚えていきます。知能の発達と経験の積み重ねを待たないといけなのです。それは理解してあげてください。そうしないとお互いにイライラし、関係が崩れていくだけになってしまいます。





### ③犬に対するリーダーシップとは？

この《リーダーシップ》・・・私は犬との関係においてこれが全てだと思います。  
 これがなければ訓練所にあずけても、裏技を使っても意味が無いと思っています。ま  
 た表面上、その教えた行為を犬が行っていても意味が無いと思っています。

テレビの動物番組を見ていると、時々こんな犬が紹介されます。飼い主さんが言  
 うには「何も教えてないのにいつの間にか持ってくるようになっていました。」例え  
 ば、飼い主さんがクシャミをしたり鼻をすすっていると、犬がティッシュペーパーを  
 もって来る。テレビのリモコンを持ち、辺りを見渡し何か探している素振りを見ると  
 新聞を持って来る。などです。なかには「フード（伊やオツ）を使って訓練したな・  
 ・」と思うケースもあります。その理由は犬がある行為をした後、人間の顔を見る  
 のではなく、手を見るからです（手から伊が出てくると思っている）。これはフード  
 や小道具を使って物理的にそうするよう訓練しただけで、別の言う事は聞かなか  
 ったり、別の問題行動があったりする場合があります。

一方、本当にリーダーシップが取れている飼い主さんの犬は、ジッと飼い主さんの  
 顔をうれしそうに見つめ、「次は何するんだろう？」と静かに待っています。人間で  
 も同じでしょう。会社の上司、学校の先生、色々な集まりでも「この人、頼りがいが  
 あって優しくていい人だなあ」と思えば、「この人の言う事は聞こう」とか、「役に  
 立ちたい」と思うはずです。これは社会性のある知的動物は皆同じです。（グループ  
 や家族で、行動や感情を共有する習性もあります）。

犬が「ある同じ行動」をしても、先程の前者と後者はまったく意味が異なるのです。

「ロボット犬」と「家族の絆」、皆様はどちらを選ばれるでしょうか・・・。

さて本題の《リーダーシップ》ですが、犬が感じるリーダーシップとは何でしょう？  
 飼い主さんの体格？ 力？ 性別？ 年齢？ エサをくれる人？ 散歩に行く人？

遊ぶしてくれる人？ 常に一緒にいる人？・・・それらではありません。答えは《態度

(<sup>きがま</sup>気構え)》です。ではそれはどんな態度でしょうか・・・。ズバリそれは、犬の直接<sup>いぬ ちよくせつ</sup>の祖先であるオオカミのリーダー達に見られる態度です。他にハイエナ、リカオン、ミーアキャットなども合理的で非常に複雑な組織立った群れを作ります。

人間と犬は数万年前から生活を共にしてきたと言われますが、それよりもはるか何倍もの長い期間犬達はオオカミとして暮らしてきました。そして数万年たった今もオオカミとしての習性を色濃く残しています。可愛いチワワやポメラニアンでも同じなのです。



### 《オオカミ》肉食目 イヌ科 イヌ属

イヌはオオカミが人間に飼い馴らされて家畜化したもので、オオカミの一亜種と言われます。捨てられたイヌが野生化して、オオカミの群れと合流し子孫を残すケースも稀にあるとのこと。

二頭から二十頭ほどの社会的な群れを形成し、厳格な順位があります。順位は常に儀式的に確認し合い維持されます。確認の手段は《態度、表情、しぐさ》がよく使われます。

リーダーはオスとは限らず、メスのリーダーもいます。



### 《ブチハイエナ》肉食目 ハイエナ科

十頭から十五頭程度の社会的な群れを形成し、オオカミと同様に厳格な順位があります。リーダーはメスで、オスの順位は低いです。腐肉をあさるイメージが強いが、組織的な狩りによる調達で食料の大半を占め、横取り率はライオンのほうが高いです。



### 《リカオン》肉食目 イヌ科 リカオン属

二頭から三十頭ほどの社会的な群れを形成し、オオカミと同様に厳格な順位があります。狩りは群れの成獣全員で優れたチームワークのもとに行われます。



### 《ミーアキャット》肉食目 マングース科 スリカータ属

三頭から四十頭ほどの群れを形成し、非常に社会性が強いと言われています。群れがエサを獲っている間、見張り役が決まっていたり、巣穴に残した子供の子守役(授乳役)などもあります。

犬も含め、彼らに平等や対等という意識は理解できません。仲間意識は強いですが、10人（10匹）いたら1位から10位まで厳格に順位が決まります。そのほうが物事の混乱が少なく合理的だからです。移動時歩く順番、食べる順番、テリトリー（縄張り）の巡回、マーキング（縄張りを示す臭い付け）、繁殖できる者、子守役、見張り役、狩りの際のチームワークなど、役割がハッキリするからです。

彼らのリーダー（上位の者）は、下位の者に対してどんな態度を示すのでしょうか。



リーダー（上位）は普段、下位の者に視線を送ったり擦り寄ったりしません。それは下位の者がする態度です。犬の飼い主が、「いい子ね〜・・・」などと頻繁に見たり、かまったりすれば犬は本能で「自分が上位だ！」と感じます。飼い主は（ご家族も）毅然とした態度で接してください。よくある例としては、普段かまひ過ぎる人よりも「仕事で忙しく犬をあまりかまえないお父さんの言う事を良く聞く」などがあります。

リーダー（上位）は普段毅然とした態度をとる一方、実は一緒に遊んでやるという事も大切にしています。（遊びと運動は⑦章にて）





普段毅然としているリーダー（上位）。では下位の者が言う事を聞かなかったり、群れの秩序を乱した時、順位を理解させる時、どんな態度を示すのでしょうか。



四つんばい姿勢で行動する動物にとって、あお向けは非常に無防備で不利な体勢です。それをさせ、さらにオオカミ（犬）の唯一の武器である牙（あご）を押さえ込みます。

移動の際、隊列から離れ遊んだり、自分より上位の者より先に食べたり、巣穴から勝手に出て遊んだり、とルールや教えを破った者には上図のような態度をとり注意します。

では、なぜ人間がリーダー（上位）にならなければいけないのかをお話したいとおもいます。オオカミ（犬）の世界におけるリーダーの役割とはどんなことでしょうか？・・・。テリトリーを巡回し、マーキングする。敵が接近していないか辺りを見渡し、臭いを嗅ぐ。敵の接近を感じれば探し出し、吠え、威嚇する。それでもだめなら噛み付く。また、下位の者が自分にチョッカイを出したり、自分の思い通りの行動をしなければ唸り、噛み付く。もちろん下位の者の言う事など聞きません。

・・・どこかで見た行動・・・。そうです、人間と暮らす上での問題行動です。そして何より、リーダー（上位）でいる事はエネルギーが必要で、とてつもなく**ストレス**がかかるのです。「でもワンちゃんは家族の中心だから、家族の一番下で、服従させるなんてかわいそう・・・」というお気持ちも分からないではない

ですが、そういった態度では犬が上位となってしまう、問題行動だけでなく過大なストレスを与えてしまうだけなのです。本当に犬の事を想うのなら決して忘れてはいけない事なのです。犬は上位の人間に守られ服従する生き方のほうが幸せなのです。

例えば・・・



お父さん



お母さん



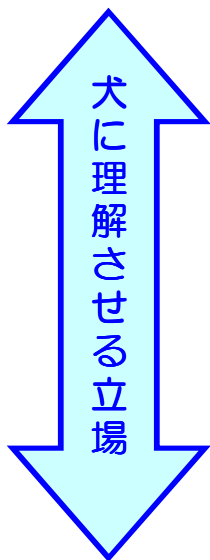
おじいちゃん



おばあちゃん



子供たち



### 【ポイント】

人間の家族間の順位を、皆さんが意識する必要はありません。それは犬が自然に感じることであり、明確に決めない犬も多いです。

目的は犬が、「自分は人間より優位だ」と感じさせないことです。

犬は自分に対して、相手がどのような態度で接してくるのか非常に鋭く感じています。

犬の要求や行動に合わせるような従属的な態度を絶対に見せてはいけません。

(従属的に見える例と甘やかし)

- ・いつもジロジロ見つめて気にかける
- ・意味無く声をかける
- ・意味無くナデナデ抱っこ
- ・ご飯やオヤツの手渡し
- ・散歩で犬の後を人間が付いて行く
- ・人間の膝の上でナデナデ
- ・人間と同じ布団で寝る
- ・要求鳴きを声掛けでなだめる

などなど



みんなに守られて安心だ  
みんな遊んでくれてうれしいな  
みんなの言うこと聞かなくちゃ

※一番上位の人間だけが「リーダー」ではありません。

リードしてくれる人間は皆「リーダー」です。

(家族間の順位付けは気にしないで「犬を主導すること」を意識してください)





## ④リーダーシップを確立する！

皆様もテレビ等でご覧になられたり、ご自分の愛犬が時々そうしたりする場面を見られたことがあるかもしれませんが、特に教えたわけでもなく犬が自らあお向けになりお腹を見せることがあります。これは、その人を「自分より上位だ！」と認め「参りました。降参です・・・。」と本能的にとっている行動です。（ただしフードを使い、芸として教えたものでは効果は薄いです）

我々もオオカミ達に学ぶべきです。犬に対し、「こら！〇〇しちゃダメじゃない」とか「〇〇ちゃんいい子にしましょう～ね～」なんて言っても犬には理解しにくいのです。犬が理解しやすい方法をとってやるべきです。



とは言っても、「いきなりあお向けにさせるのはちょっと不安・・・。」という方もいらっしゃると思いますし、危険な可能性もありますので、《あお向け固め》（すいません今回勝手にそう呼びます）の前に、後述の《リーダーウォーク》を先に実践してください。

## 《リーダーウォーク》

オオカミのリーダーから学びましょう。普段リーダー（上位）は、群れを守るため外敵の侵入がないか、辺りを常に警戒していますのでイチイチ下位の者に視線を送ってられないのです。視線を送るのは下位の態度です。皆様も視線を合わせず、声もか

毅然とした態度。下位と視線を合わせない。



けないでください。(犬の動きは、見てないように横目でチラッと確認してください)

そして、行き先・歩くスピード全てリーダーが決めます。犬の思うがまま飼い主がついて行くような事は絶対にしてはいけません。

ですので犬が飼い主の前に出て勝手な方向へ行こうとしたらすかさず方向転換してください。

### 《ポイント》

・鉄の意志で臨んでください！

「かわいそう」ではないのです。あまやかし、犬が上位と感じストレスが溜まるほうが本当にかわいそうです。

・声をかけないで下さい！

・視線を合わせないで下さい！

見てないフリして横目でチラッと確認

・無理に引っ張ったり、その姿を犬に見られないようにして下さい！

敵対心を生み、信用されなくなります

・歩くスピードを変える！方向を変える！止まる！

飼い主の主導で頻繁に行ってください

・車や人間の交通量が多い場所は避けてください！

犬も人間も危険です。犬嫌いの他人にも配慮を

・大人の飼い主がしっかりできるようになってか

ら子供さんやご年配の方にもしてもらう！

・本当の目的は、飼い主の毅然とした態度を

見せることです！(体のコントロールではない！)



リードは  
たるませておく



すかさず無言でUターン



飼い主は既に反対方向へ歩いている



この繰り返し

早ければ初回の散歩で変化があります。そのうち、飼い主のほうを犬が頻繁に見るようになり、ピッタリ脇に付いて歩いてくれます。

また、リーダーウォークは散歩の時だけとは限りません。家の中でも同じことです。吠えたらリーダー

ウォーク、咬んだらリーダーウォークです。ただし、その際は

現行犯が効果的です。犬は何分も前の出来事を叱られてもまったく理解できません。

しかも、叱られたその瞬間にしている行為が悪い事だと理解してしまいますので注意

が必要です。例えば、「さっき〇〇ちゃんがものすごく咬んだの！」と他の家族から

聞いたとします。「よし！ビシッと叱ろう！」と、犬の名前を呼んで犬が来たとしま

す。そこで怖い顔してリーダーウォークや、あお向け固めをすると犬はどう感じるで

しょうか。実は犬が感じるのは、何分か前に咬んだ事よりも名前を呼ばれて飼い主に

近ずいた事がいけないと理解してしまうのです。ですので叱る時は現行犯、を心掛け

、少し前の悪い出来事は我慢して無視してください。

さてリーダーウォークの話に戻りますが、前述したポイントを守り根気よく続けると明らかに犬の態度が変わってくるのですが・・・

ここからが重要ですよ！！！！

特に、いままでワガママを放置されてきた犬ほど顕著なのですが、いい子になりか

けてきた頃、再び散歩で引っ張ったり、吠えたり咬んだりしてきます。「やっぱりう

ちの犬はバカなんだな」「生まれつきなんだろう、あきらめよう」「やっぱり訓

練所に預けないとダメか～」・・・違います。生まれつき悪い犬、バカな犬はいま

せん。訓練所に預けても帰って来てしばらく経てばまた同じ事です。犬にとってみれば、

いままでの自分が理解している順位が変化しようとしているからです。例えば、

ある犬は自分が一番順位が上だと感じていたかもしれませんが、上位はお父さんだけ

、あるいはお母さんだけ、おばあちゃんだけだったかもしれません。犬からすると、

ピッタリ脇に付き、飼い主を見るようになる



次はどっち行くのかなあ！



ほんとう じぶん かい ため けっ ゆず  
本当に自分のほうが下位なのか、試そうとするわけです。ですのでここで決して譲  
てはいけません。いままで通りリーダーウォーク（あお向け固め）を徹底してくださ  
い。しつけは 《三歩進んで二歩下がる、の繰り返し！！》 です。

## 《あお向け固め》

さいしょ 最初から《あお向け固め》ですと不安でしたり、咬まれる可能性もありますので先  
にリーダーウォークからお話いたしました。この《あお向け固め》こそオオカミ  
（犬）のリーダーや上位が行っている行為そのものなのです。



にんげん く むかし おこな こうい いぬ ほんのう ちよくせつりかい いち  
人間と暮らすはるか昔から行っている行為ですので、犬の本能で直接理解できる一  
番良い方法だと思います。実は子犬達が生後数週間で兄弟間で自然とこの行為を行  
っていて、また親犬が子犬を叱る時にも使います。

ほうほう いぬ む かえ  
方法ですが、まず犬をあお向けにひっくり返します  
。小型犬は簡単でしょうし中型犬以上でも、上半身を  
抱き上げ前足が浮いたら、後ろ足をゆっくり人間の足  
で払いながら上半身を横にすればポテンッと倒れます。  
起き上がったとき咬み付こうと抵抗してきますので、犬  
の下あごを人間の手で固め、もう片方の手で下腹部  
か後ろ足を固めます。同時に、抵抗した場合は静か  
に低い声で「ダメ」と言い聞かせ、厳しい視線を送  
り、犬にも人間の目を見させてください。

こてい ていこう にら く かえ  
固定しつつ、抵抗したら睨んで「ダメ」の繰り返し  
。ではいつまでそうするか、ですが右図のように最初



は犬が緊張し恐怖心、抵抗心からシッポをお腹にペツ  
タリくっつけています。ですが、あお向けで固定され  
た状態がしばらく続くと、犬は降参し自分の立場が  
下位であることを認め理解し、身をゆだねリラックス  
してきます。最後にはまったく抵抗しなくなり、右図  
のようにシッポが地面にダランと垂れ下がります。犬  
種によってシッポの形状上分かりにくい場合は、体が  
動かなくなり、なんとなくリラックスした感じがあれ  
ばそこでOKです。



緊張が少し解けてシッポが  
段々後方へ移動していく



完全に緊張が解けてシッポが  
地面にダランと垂れ下がる

そして必ず褒めてあげてください。皆様の意  
思態度を受け入れ従ったわけですから、お腹や喉の辺  
りを触れながら「〇〇良い子」で声掛けします。皆様と  
愛犬の絆がグッと深まります。また、《あお向け固め》  
がしっかりできるようになったら次のステップです。

あお向けの状態で、犬の嫌がる所を触ります。足の先（爪）、わきの下、わき腹、シ  
ッポの先など色々な所を触ってください。もちろん抵抗したら《あお向け固め》を最初  
からやり直してください。どこを触られても抵抗しなくなったら完了ですが、私はコミュ  
ニケーションも含めた意味で毎日しています。また、あお向け固めの度に抱きかかえて  
足払いも大変なので、私の合図であお向けになるよう教えています。（後の章で解説）

### 《ポイント》

・鉄の意志で臨んでください！

リーダーウォーク同様ですが「かわいそう」ではないのです。あまやかし、犬が上位と  
感じストレスがたまるほうが本当にかわいそうです。

・最初は厚手の手袋や腕力バーなどを装着してください。

長くワガママを放置されていた場合、激しく抵抗する可能性もあります。万が一に備え。



・肉体的に苦痛をあたえる体罰ではありません！

あお向けにする際乱暴に倒したり、下あごを押さえる際体重をかけたりして苦痛をあたえてはいけません。あくまで服従姿勢に固めることが目的です。（首輪をつかんでもOK）

・最初は犬を一瞬ひっくり返すだけにし、すぐ開放して必ず褒めてあげてください。

遊びの中で時間をかけ、日数をかけ、少しずつ静止時間を長くしていけば良いです。

・大人の飼い主がしっかりできるようになってから子供さんやご年配の方にもしてもらおう。（必ず大人の飼い主が補助する）

・一つのコミュニケーションです。毎日してください。回数も多ければ多いほど良い。

・吠えたり、咬んだり、言う事を聞かない時もこれを使います。

前述したと思いますが、人間の体格や性別などで犬が上位を判断しているわけではありません。右の写真はリッキーと私の姪っ子で、まだ6歳の女の子です。この子は普段一緒に住んでいませんので慣れているわけでもなく、リッキーの問題児時代は吠えられていた為かなり怖がっていました。しかし、私がしっかりしつけられるようになり、リッキーも落ち着いているので最近では姪っ子もリッキーに触れてみたい感じがありました。そこで姪っ子にも《リーダーウォーク》や《あお向け固め》をしてもらいました。リッキーも理解したようで、《待て》や《座れ》の指示をしっかりと聞いて行動しています。問題児時代では身長180cm体重70kgの私に吠え、咬み付き、引っ張り、言う事などまったく聞かなかったくせに・・・（笑い）。



子供にさせる場合は必ず大人が補助を。リーダーウォークは屋内など安全な場所で。



子供にさせる場合は必ず大人が補助を

誰がしているのか犬はちゃんと見ています



人差し指で座れ。手のひらを見せると待て、と教えてあります。フードや小道具は使いません。

さて、《リーダーウォーク》と《あお向け固め》のポイントに記述した事なのですが、「子供やご年配の方もできるように」としました。それに関連した実例を一つご紹介いたします。

リッキーの問題児時代、悩みながらも勉強し毅然とリーダーシップをとり、リッキーもだいぶイイ子になってきた頃です。私のいない所で吠えるのが気になっていました。「またダメか～」と心配したのですが、よく観察してみるとどうやら私の母親に吠えているようでした。そして母親がリッキーの近くににいるのに、かまっていない時に吠える、という事も分かりました。よくよく観察してみると分かったのですが、母親がリッキーを甘やかしていたのです（正確には犬に合ったしつけを理解していなかった）。母親の行動はこうでした。リッキーのそばを通る度に（特に言う事を聞いたわけではないのに）、「イイ子、イイ子。ヨシヨシ。」と撫でていたのです。だからリッキーにしてみれば、母親が近くに来る度に「かまって撫でてくれる」と思い、習慣になってしまったのです。そしてその習慣が実行されなかった時、ストレスを感じて吠えたのです。また更に悪い事に、吠えられた母親はなだめようとしてまた「イイ子、イイ子。ヨシヨシ」をしてしまったのです。それによりリッキーは更に「吠えれば、かまって撫でてもらえる」と覚え、また吠えるのです。そしてリッキーからしてみれば、「自分が上位」と感じていたでしょう。ちなみに私の母親は、だいぶ年もとり、孫が多くなってきたせいか、人間の子も犬も甘やかしが目立ちます。皆様も、ご家族の行動にも注視を。

上記で習慣を強調しましたが、この《習慣》も甘く見てはいけません。犬は習慣を頑なに守ろうとし、実行できなかった場合はストレスを感じます。そして時計を見ているわけでもないのに、正確に時間を覚えます。後の章で述べますが、毎日同じ時間に散歩する、同じ時間にエサをやる、なども考慮が必要ですし、子供やおばあちゃんがこっそり人間の食べ物を与えていたせいで家族の食事の時間にいつも吠える、なども例としてあります。

この章の最後に、犬の社会化について少し触れたいと思います。大半の人間は犬に対

し、「<sup>かとう どうぶつ いしき おも</sup>下等な動物」という意識があると思いますが、<sup>のうりよく しゅるい</sup>とんでもありません。能力の種類  
<sup>ちが</sup>が違うだけで、<sup>にんげん</sup>人間より優れた能力をたくさん持っています。<sup>しゅうかく ちょうかく どうたい しりよく</sup>臭覚・聴覚・動体視力な  
<sup>ゆうめい</sup>どは有名ですが、<sup>せいちよう</sup>成長スピード（<sup>がくしゅうのうりよく</sup>学習能力）も人間をはるかに超えています。<sup>せいご</sup>生後わす  
<sup>しゅうかん</sup>か3週間ほどで立ち、<sup>た</sup>見聞し、<sup>けんぶん</sup>反応します。<sup>はんのう</sup>7週間後には走り、<sup>しゅうかんご</sup>ジャンプし、<sup>はし</sup>兄弟でジ  
<sup>あ か</sup>ャレ合い、<sup>じゅんい</sup>狩りのマネごとや順位決めの方法など、<sup>ほうほう</sup>すでに社会的行動を学んでいるので  
<sup>じつ ぜんじゅつ</sup>す。実は前述した《<sup>む</sup>あお向け固め》は、<sup>がた</sup>子犬が複数頭で産まれた場合兄弟間で既にやり  
<sup>あ</sup>合っていて、<sup>おやいぬ</sup>親犬もしつけに使います。<sup>つか</sup>本能でちゃんと理解しているという事なのです。<sup>ほんのう</sup>

<sup>せいご</sup>そして生後2ヶ月から4ヶ月くらいまでに、<sup>げつ</sup>人間との関係が出来上がると言われてい  
<sup>みなさま あいけん</sup>ますので、もし皆様の愛犬がその時期までに家族になった場合は、「<sup>じき</sup>まだ子犬だから」  
<sup>ちゅうちょ</sup>と躊躇せず《<sup>む</sup>リーダーウォーク》《<sup>がた</sup>あお向け固め》をしっかりと行ってください。<sup>おこな</sup>犬が理  
<sup>かい いちばんよ</sup>解する一番良いチャンスなのです。もちろん「<sup>じき</sup>その時期が過ぎてるから家の犬はもうダ  
<sup>かんが ひつよう</sup>メだ」と考える必要はありません。<sup>にんげん どうよう</sup>人間同様、<sup>ほにゅうい</sup>哺乳類は生涯を通して<sup>しょうがい</sup>学び<sup>とお</sup>世界に<sup>まな</sup>興味を  
<sup>もち つづ</sup>持ち続けます。<sup>じき</sup>ドッグトレーナーによっては「<sup>す</sup>その時期を過ぎてしまったら難しいです」  
<sup>い</sup>なんて言う人もいますが、<sup>ひと</sup>そうではないと私が経験しました。<sup>わたし</sup>外国では、<sup>けいけん</sup>前の飼  
<sup>ぬし</sup>い主に虐待され捨てられた犬が、<sup>がいこく</sup>介助犬やセラピードッグになったりする例もあります  
<sup>す</sup>ので、<sup>いぬ</sup>あきらめる事は全然ありません。<sup>かいじょけん</sup>むしろ人間と同じで、<sup>れい</sup>年をとるほど知能が発達  
<sup>こと ぜんぜん</sup>しますので、<sup>にんげん</sup>正しい教え方をすれば覚えが早かったりもします。<sup>おな とし</sup>



**※注意点とおさらい** <sup>ちゅうい てん</sup> あせて<sup>きゅう</sup>急に長時間したり<sup>ちょうじかん</sup>感情的に<sup>かんじょうてき</sup>強引に<sup>ごういん</sup>ならないでください。  
<sup>とく</sup>特に「<sup>む</sup>あお向け」は無理せず、<sup>むり</sup>最初は遊びの<sup>さいしよ</sup>流れで<sup>あそ</sup>チョット<sup>なが</sup>ひっくり返して<sup>かえ</sup>みる程度<sup>ていど</sup>  
<sup>き</sup>から始めると良いです。<sup>か</sup>抵抗が<sup>なんにち</sup>激しい場合は、<sup>じかん</sup>いったん中止し、<sup>お</sup>リーダーウォークに  
<sup>き</sup>切り替えましょう。<sup>か</sup>何日か時間を置いて再度「<sup>さいど</sup>あお向け」を試みて<sup>む</sup>ください。<sup>こころ</sup>  
<sup>からだ</sup>また、リーダーウォークは「<sup>もくてき</sup>体のコントロール」が目的でもなく「<sup>さんぽ</sup>散歩」が目的でも  
<sup>きぜん</sup>ありません。<sup>たいど</sup>毅然とした態度を見せることが目的です。<sup>み</sup>だから無理に<sup>もくてき</sup>歩かなくても  
<sup>ひ</sup>引<sup>ば</sup>張る犬には<sup>いぬ</sup>反対を<sup>はんたい</sup>向いて<sup>む</sup>無視して<sup>むし</sup>ジッと止まる。<sup>と</sup>それだけでも<sup>こうか</sup>効果があるのです。



## ⑤体罰は有効か？ (嫌な臭い、苦い味スプレーなどのしつけグッズ含む)

体罰と言っても色々あると思います。例えば、たたく、つねる、引っ張る。これは肉体に直接人間が加えるものです。他には、吠えたら嫌な臭いや超音波が出るとか、咬んだ時苦い味がするようなスプレーを物に吹きかけておくなどのグッズで、これらは天罰的なものですが私は一種の体罰だと考えます。

私の結論ですが、それらは全て使う事に反対です。無効どころか、逆作用だと私は現実体験を通して感じました。

まず直接的な体罰ですが、反抗したり悪い事をして叩いたとします。人間の場合、ある程度大人になっていくとなんとなく理解できますが、犬の場合まったく理解できません。シンプルに防衛本能が働くだけです。リッキーもそうでしたが、吠えたり咬んだり気がになり軽く頭を叩きました。その時は、なんとなく怯んだのですが、次に吠えた時私が手を上に上げると、防御体制に入り唸り歯をむき出し咬み付いてきました。そこで更に強く叩くと、リッキーは更に激しく唸り咬み付いてきて、悪循環になってしまいました。（私の例ではありませんが、更に強烈な体罰でしつけるとその人の言うことはある程度聞かすが、他の人間に対し凶暴になったり落ち着きがなくなるようです。）そして、プロフィールにも記述しましたが、困り果てた私はグッズを購入しました。無駄吠え防止グッズと、咬みぐせ防止グッズです。前述の通り結果的には治りませんでした。いえ、むしろ治らなかった事のほうが良かったのかもしれませんが、もし本当に「おりこうさん」で、グッズのパンフレットにあるように「家のワンちゃんはこれで治りました！」という犬だったら、私もここまで勉強しなかったでしょうし、リッキーの問題行動の本当の原因を分かってあげられなかったと思います。そして家族としての絆も、今より希薄だったかもしれません。問題行動の原因であるストレスをまた別のストレスで塗りつぶそうとただけだったのです。それでは結局ストレスが倍増するだけなのです。







## ⑥指示を出し行動させる (座れ、ふせ、待て、来い、その他応用編)

これまでの章で、リーダーシップについて述べてきました。ハッキリ言いまして、私はこのリーダーシップこそが全てで、他は重要ではないと言っても過言ではないと思っています。今までの章の所々で紹介したように、犬が本当に人間をリーダーと認めたら、犬は教えられなくとも人間を良く観察し何をすれば良いのか、何が悪いのか学習する能力をちゃんと持っているのです。特に教えたわけでもないのに、物を持って来るとか、ドアを開けてくれるとか、夫婦ゲンカの仲裁をしようとしたり。また、犬が悪い行動をしても、人間の反応を見て「これはやめよう」としたり。犬は感覚が非常に鋭い動物です。人間の喜怒哀楽、緊張、不快感などが、顔の表情、体温、心拍数、汗の臭いなどに変化をもたらし、それを察知できると言われています。家族と一緒に生活していくうちにそれを知っていくのです。

とは言いましても、日常の生活のなかで「これをちゃんとしてくれたらいいのにな」というものもあると思いますので、ここからの章でお話していきたいと思います。

まず行動させるための手法ですが、フード（ヤツやIサ）・小道具を使うのは賛成できません。私も当初使っていましたが、何か違和感を感じていました。指示を出され行動した後、犬が見るのはフードが出てくる人間の手やオモチャだからです。人間を信頼し、喜んで言う事を聞いているのとは明らかに違います。

では何をキッカケに教えればよいでしょうか……。それは《姿》（型）を作っただけです。座れなら、実際に座っている《姿》にさせます（方法は後述）。その姿（型）をとっている瞬間に、人間からの言葉やジェスチャーを結び付けてあげます。

人間の子供も同じです。親が行動や写真や絵を見せ、言葉で覚えさせます。ただし犬の場合、人間と少し感覚が違います。犬は動きの無い複雑な形状や色を認識するのが苦手です。ハッキリ明暗の違う色（明るさ）や、動くものに敏感に反応しますのでジェスチャーが有効です。人間としても指示が出しやすいでしょう。ただ、おおげさ



にする必要はありません。人間から見ればほとんど止まって見えても、手や指など微妙に動くだけで動体視力や聴覚が優れた犬にはハッキリ認識出来ます。

そして言葉ですが、人間の使う文章は理解出来ませんのでなるべく短い言葉、というより《音》で教えてください。後述しますが私の場合は、座れなら《人差し指を立てるジェスチャー》と「スワレ」という《短い音》、動かないでほしい時は《手の平を広げて見せるジェスチャー》と「マテ」という《3文字以内の短い音》を使います。

## 《ポイント》

### ・フードや小道具は使わない

何度やっても、まったく従わない素振りがあるようなら、その人を認めていません。

再度《態度》《リーダーウォーク》《あお向け固め》を徹底してください。

### ・姿(型)をしっかり作ってあげる

その指示がどういう意味なのか、自分で型をとらないと犬は理解出来ません。

### ・姿(型)をした瞬間に、ジェスチャーと短い音をセットで関連付け褒める！

### ・ジェスチャーや音をどんなものにするか、家族間で統一してください

バラバラですと犬が混乱し覚えにくいです。

### ・出来るようになったら、《ジェスチャーのみ》《音のみ》どちらか一つの場合でも

### 出来るようにする

例えば、周りの音がうるさい時などはジェスチャーが有効です。また見えない所にいる犬を呼び寄せる場合などは音が有効です。

### ・ちゃんと出来たら必ず褒める ※出来なければ型を作ってあげて褒める！

《あお向け固め》の際は、落ち着かせる目的で「軽くタッチ」としましたが、今回は軽くたたいてください。頭でも胸でも肩でもお尻でも背中でもいろんな所をポンポンしてください。ただし、噛み癖の強い犬や怖がりな犬は、人間の手が上から近づいたり後ろから近づくの怖がりますので、そういう場合には、犬の目線よりも低い位置から手を近づけ、犬から見えやすい肩の付近をポンポンしてあげると良いです。

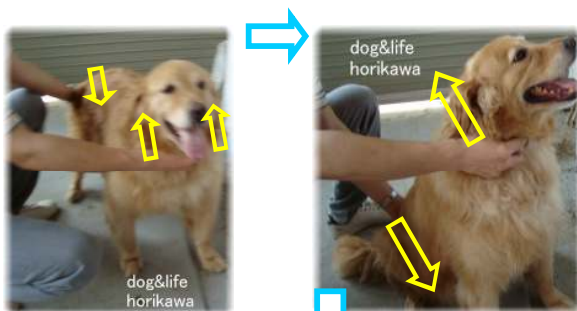
また犬が認めたリーダーなら、一緒にいてくれるだけで立派なごほうびであり、褒められればなおさらです。フードや小道具を使えば覚えは早いですが意味がないと私は思います。

## ・一日で教え込まない

一日で何種類のもの動作を、何時間もかけて教えても犬は覚え切れません。一つの動作を一週間くらいで覚えさせるようなつもりで、気長に接してあげてください。

## 《スワレ（座れ）》

写真で言えば、私の右腕で犬の胸を（犬の）斜め上後方へ押してやります。同時に私の左手で犬のお尻を（犬の）斜め下前方へ押してやります。すると体の中心を支点にストンツと座ります。その瞬間に人差し指を立て「スワレ」と言います。この時点で犬が自ら座ったわけではないですが、座った姿（型）をしたわけですので、ここで必ず褒めてあげてください。それにより、姿とジェスチャーと音がより鮮明に記憶に残ります。これを繰り返してください。そして何度か繰り返したら確認です。座っていない状態で、ジェスチャーと音で指示を出してみてください。出来たら勿論褒めてください。出来なくても絶対に叱ったりせず、型をとらせるところからやり直してください。仕上げはジェスチャーのみ、音のみで。



人間の顔を見えています。リーダー（上位）に褒められ、その笑顔が何よりのごほうびです。フードや小道具で釣っているのとは根本的に違うのです。



スワレ！

これがスワレ？

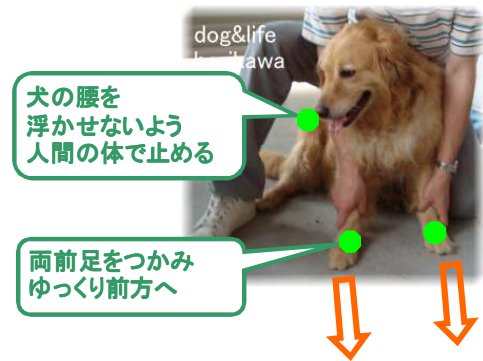
〇〇良い子！

軽くたたきポンポン

分かったようれしい～！

## 《フセ（伏せ）》

スワレが<sup>でき</sup>出来たら、その<sup>なが</sup>流れでフセをさせると<sup>かんたん</sup>簡単  
 です。座った状態から、前足を前方へ動かさせばフセ  
 になるのですが、それだけですと犬は腰を浮かし前  
 へ歩いて行こうとしてしまいますので、犬に馬乗り  
 になるようにし、座った状態から腰が浮かないよう  
 人間の体で止めてあげます。そして両前足をつかみ  
 ゆっくり前方へ移動します。犬のお腹が床に付けば  
 姿（型）は完了です。その瞬間、手の平を下に向け  
 「フセ」と声をかけます。勿論褒めて、それ以降も  
 スワレと同様ですので割愛いたします。



## 《マテ（待て）》

マテは動かない状態を作ってください。その為  
に犬の体を固定しなければいけませんので、首輪かボ  
ディハーネスを付けてください。そして人間が首輪を  
ガッチリつかみ、犬が動かない姿（型）をとらせるだ  
けです。最初は動こうとしますが、時間と共に動かな  
くなり止る瞬間がきます。そこですかさず「マテ」の  
音と手の平を開き犬に向けます。そして犬が動く前に  
素早く褒めてあげます。それ以降の流れはスワレやフ  
セと同じですので割愛いたしますが、マテの重要なポ  
イントをお話します。このマテでは、とにかく色々な  
状態から教えることです。例えば歩いている時、四つん  
ばいで立っている時、座っている時、フセている時、エサを  
食べようとする時などなど。同じ姿勢ばかりで教えて  
しまうと、その姿勢がマテだと思ってしまうからです。  
また、マテの状態から褒めるまでの時間ですが、最  
初は直ぐに褒め、出来るようになったら段々時間を  
長くし、ある程度長い時間（数十秒でも）待てるようにしましょう。



歩いている時止めて固定



マテ！



軽くたたく ポンポン

〇〇良い子！

色々な 場面 おし  
で教える

ボール遊びの前に  
またボール遊びの  
途中にも

ごはんを食べる前に  
また食べている途中

動かないよう  
体を固定

止まっている姿  
とジェスチャー&音

声をかけ褒める  
軽くたたくポンポン





## 《コイ（来い）》

コイは、マテが出来るようになってからがスムーズです。まず犬にリードを付けてください。そしてスワレ・マテをさせ、少し離れてください。犬はマテをしている間、段々動きたくなってきますので、そこで「コイ」と声をかけると同時に、軽くリードをたぐり寄せてください。そして犬が来てほしい位置に指を差して、そこに犬を誘導してください。（音は「コイ」でなくとも、短いなら犬の名前でも良いと思います）

マテをさせ、少し離れる



は～い

マテ！



犬に来てほしい位置を指差す



声をかけリードを引く

コイ！



なんだか引き寄せられる～

コイ！

この位置に来るようリードをたぐり寄せる



これがコイ？

コイ！



〇〇良い子！

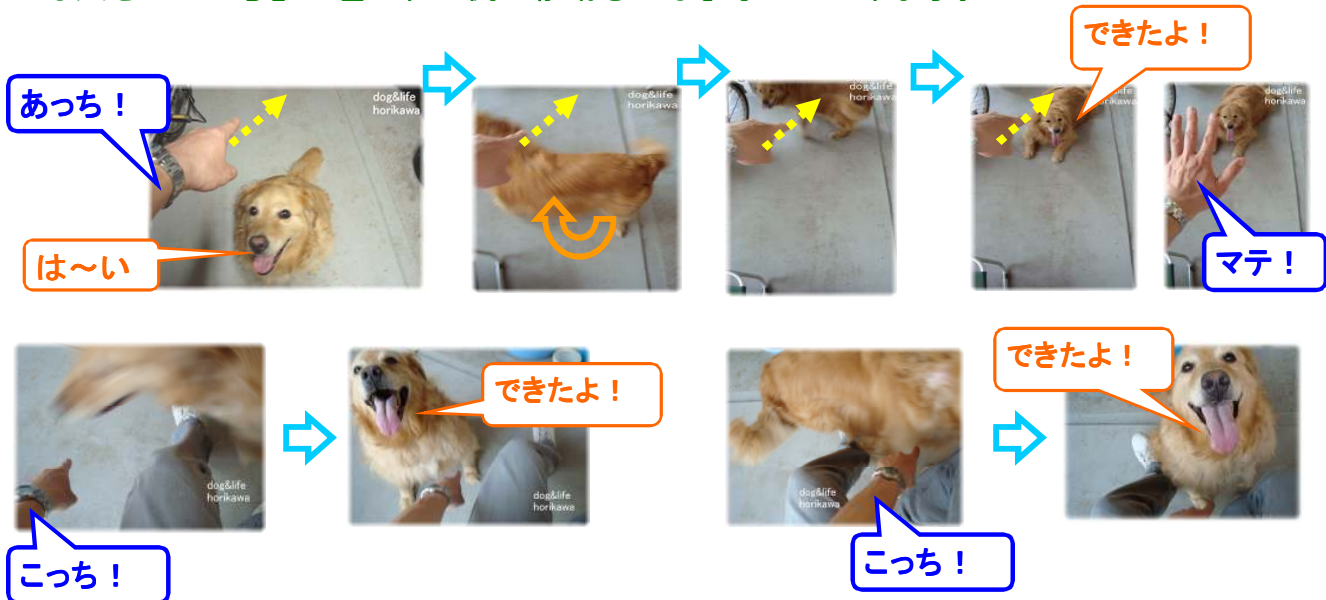
分かったようれしい～！

## 《その他応用編》

もう皆様お気付かと思いますが、姿（型）をとらせ音とジェスチャーが結び付けば色々な事を覚えてくれますので、皆様とご家族の生活に合った動作を他にも教えてあげてください。沢山あるかもしれませんが、私がよく使うほんの一部を次ページから紹介してこの章の終わりいたします。



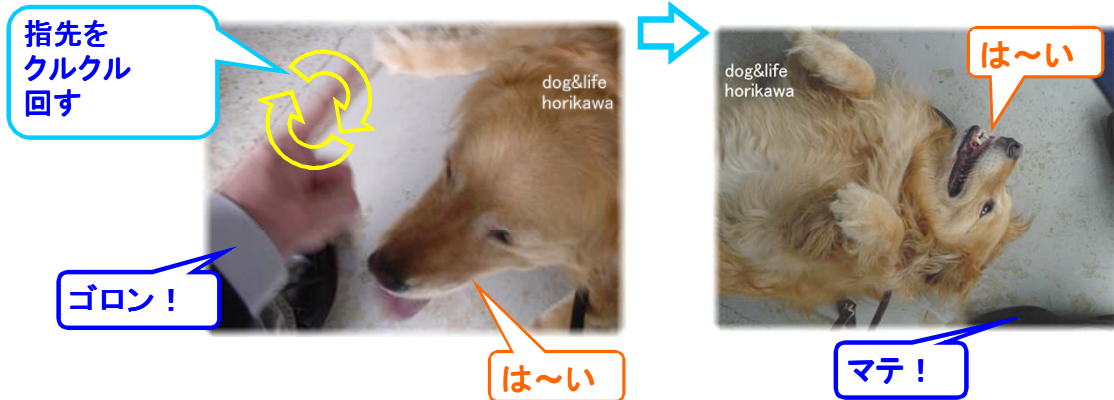
コイが出来ましたので、犬は指を指された位置に行けば良いという事を理解しています。ですので例えば、今犬がいる場所の掃除がしたくて、どいてほしければ指を移動してほしい場所へ向け「あっち」と言えば行ってくれます。また、人間の左側にいる犬を「こっち」と言い、右側に移動させる事なども出来ます。



その他よくありがちですが、犬は落ちていた物や口が届く場所の物を咥えて持って行ってしまいます。そもそも、そういう場所に大事な物を置く人間が悪いですが、もし持って行ってしまった場合は呼び寄せ、人間の手の平に物を出させる教えも有効です。また、いけない物を咥えた瞬間に「ダメ」と言って《あお向け固め》をするのも良いでしょうし反対に、指示した物を咥えて持って来させる事を同時に教えると、指示された時だけ咥える、指示されなければ咥えてはダメ、と理解しやすいです。

《あお向け固め》の解説時に少しご紹介しましたが、あお向けの姿勢を指示で出来ると非常に有効です。私の場合は毎日何度もしています。目的は沢山あります。順位の確認は勿論、大切なスキンシップですし、足の裏や爪、お腹、お尻、しっぽなど様々な所を触ったり見て、ケガや病気の兆候がないかチェックします。また毛繕いがとても楽です。リッキーは今は絶対に暴れたりしないので、あごを押さえる必要はなく、あお

む 向けの指示をした後、マテの指示を出せばその姿勢でいてくれます。



さんぽ いっしょ ある とき 散歩など一緒に歩く時、「ツケ」と声をかけ私の左足の外側をポンポンと叩き、付いて

ある 歩かせる。家の中でも

ひんぱん れんしゅう くだ 頻りに練習して下さい。

こいぬ さんぽ まえ 子犬はお散歩デビュー前に

あそ はんぶん い 遊び半分でも良いので

れんしゅう 練習しましょう。



オテですが日常生活で特に必要とは思いませんが、犬の前足を手に取り「オテ」の音、

ほ 褒める、の繰り返し。犬も人間もやり易いので直ぐ覚えませんが、小さな子供にはさせない

ほう 方がいかもしれません。以前、2才のまだしゃべれない子が、おねえちゃんのマネを

して手の平を出した時、リッキーは普通にしたつもりだったのですが、2才の子の背が

低いので手に乗せる前に頭に当たってしまった事があり「目や顔に当たらずに良かった〜」と冷や汗をかいた事がありました。（中型犬より大きい場合、特にご注意ください）。

この「オテ」は日常生活には役に立たないのですが

かんたん おぼ いぬ か ぬし じしん 簡単に覚えられるので、犬にも飼い主さんにも自信

になり、かつ挨拶や主従関係の確認行為として手軽

に使える、という良さがあります。





## ⑦散歩・運動・遊び

まず私のポイントをまとめましたのでご紹介し、ポイント別にお話していきたいと思  
います。

(1) 一日の運動量は30分以上、1時間以内

(2) 毎日同じメニューにしない、同じ時刻にしない

(3) 散歩とトイレをセットにしない

(1) 一日の運動量は30分以上、1時間以内（勿論、病気・怪我・高齢犬の場合は除く）

これは「絶対」と言う事はないと思います。ドッグトレーナー、獣医師の意見も様々で  
すが、「散歩は一週間に1回」とか、「運動なんてさせた事無い」と言うのではあまりに  
も運動不足で心身共に良くないです。年齢にもよりますが最低でも30分以上の散歩か軽  
い運動をさせてあげてください。犬は生来、活動的な動物です。また我々人間にとっても  
良い事です。人間にとって一日30分以上の連続した有酸素運動が良いと言われている  
が、歩く事が手軽さも含めて良いとされています。私の場合は30分散歩し、30分ボール  
遊びなどをするのが基本メニューです。

では出来るだけ多く運動させた方が良いでしょう。答えはNOです。人間でも長時間  
のジョギングやトレーニングはケガの原因になりますし、運動によって体内に乳酸が蓄積  
されます。乳酸は細胞を劣化させ老化が早まると言われています。ですのでスポーツ選手  
は乳酸を測定し運動量をコントロールしています。犬も同様です。一日何時間も運動させ  
たり、自転車は何十キロも走らせるのは良くないです。例としては職業犬などで、実務・  
訓練によりかなり運動量があるため、一般の家庭犬より寿命が短いと言われています。ま  
た、アジリティ競技や高飛び競技などで記録を良くするために過酷な訓練をさせるのも  
私は人間の身勝手だと思います。（勿論、そういった会に参加する事自体は、人間にも犬  
にもコミュニケーションが広がり運動や遊びのバリエーションが増え良い事だと思いま

す。) また、太り過ぎを理由に過度な運動も禁物です。獣医師も「運動で痩せさせないほうがいい」という意見が多いです。(勿論、ほとんど運動や散歩をさせてこなかった場合は違いますが)。運動をしているのに太り過ぎならば食事量のコントロールが必要です。(⑧章で述べます)

## (2) 毎日同じメニューにしない、同じ時刻にしない

犬は散歩もボール遊びも好きです。いつもの時間になるとリードを咥えて持って来るとか、ボールがかたずけてある場所で待っていると。それはそれで、おりこうさんなのですが、この場合の問題は犬が主導になっている事です。これでは人間のリーダーの位置が失墜します。何時何をするかはリーダーである皆様が決めるのです。以前リッキーも毎日同じ時間に散歩、同じ時間に食事だったのですが、その時間になると決まって吠えたり、そわそわしていました。私のリーダーシップは失墜し、リッキーにも相当なストレスだったのです。だったら習慣にしなければ良いのです。飼い主が散歩に連れて行ってくれる日が「散歩の日」、飼い主が遊んでくれる時間が「遊びの時間」、というふうに理解してくれます。だからと言って「毎日違うメニューにしろ」とか、「毎日時間を変えろ」という意味ではありません。私の場合、一週間に一日くらいは散歩しない日を作っています。利用するのは例えばドシャ降りの雨の日とか、私の体調が悪い日などです。そんな日は屋内でボール遊びだけ、などにします。また、ボール遊びはしないで散歩だけの日もあります。勿論時間もずらし、三日以上同じ時間にしないようにしています。だから今のリッキーにとって、「毎日同じ時間に何かをする」という概念がないので、そわそわしたり興奮する理由が無いのです。

また、それらに関連する事です。皆様が出かける前や帰って来た時に、犬に触ったり声をかけたり、視線を送ったりしていないでしょうか。してはいけません。犬は皆様に挨拶された後、長時間居なくなってしまう事を直ぐに覚えます。嫌な話をずっと聞かされ、不安をあおられているようなものです。



で 出かける時は「いつの間にか居なくなってた」という形が一番良いのです。また出先から帰って来た時、いつも挨拶していると人間の出入りに過敏になってしまい、ストレスを与えることになります。私は出かける時、帰って来た時も一切声もかけず目も合わせません。そうするようにしてからは、リッキーも非常に落ち着きが出てきました。

### 《私がさせている運動と遊び》

犬も人間も、生涯にわたり世界に興味を持ち続ける動物です。他の人間・生物、建物、自動車、電車、自然。多様な世界を見せましょう。多様な行動をさせましょう。社会化＝慣れです。それらも普段の落ち着きやストレスに大きく関わっています。嫌がるからと言って人や犬を避けるのは絶対にいけません。来客にも積極的に会わせましょう。

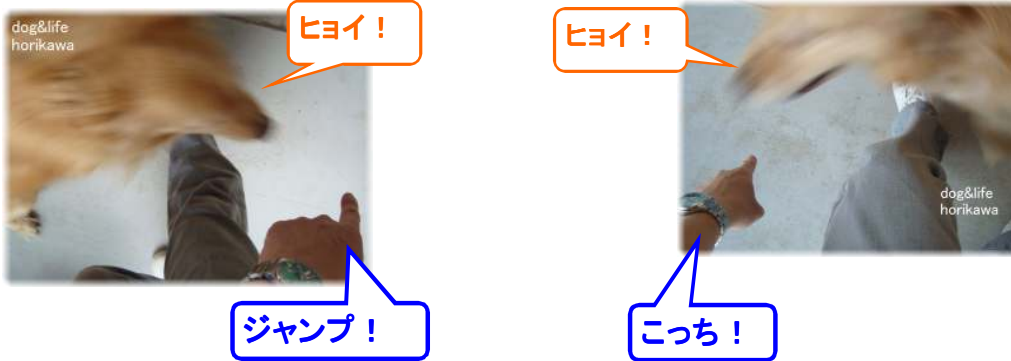
一日30分以上の連続した歩行(もちろんリーダーウォークです)



### ボール遊びやジャンプ

「家は狭いから無理・・・」そんな事はありません。ゴールデンの大きさでも2メートルくらいあれば十分出来ます。ボールはヒモ付きにして、飼い主があっちこっち動かしてあげると犬も楽しく運動量も増えます。また、ボールコントロールを飼い主が主導しているのでリーダーシップもとれます。⑥章のコイが出来れば、人間の足の上をジャンプさせたりする運動も出来ます。(私はイスに座ってボールを動かしたり、指示してるだけです)





(注) ダックスやコーギーなど足の短い犬は、高いジャンプはさせないように注意してください。足が短いと着地の衝撃を吸収しきれず、股関節や背骨を傷める可能性があります。たまにテレビで見ることがありますが、ソファから飛び降りた際、背骨を痛め下半身麻痺になってしまうケースがあります。

※引っ張りっこ遊びは止めましょう。対面しての力比べなので対抗心が強くなり、動く人間の姿に過敏に反応し、噛み癖・吠え癖・引っ張り癖・興奮癖がつきやすいです。

その他、私の場合は海に連れて行く事もよくあります。車にも慣れますし、泳ぎ、砂浜を走り、穴掘りも大好きです。ただし、そんな時もリードは必ず付けましょう。(飼い主に繋留義務がある地域がありますが、犬嫌いの人に不安をあたえないためでもあります。長〜いリードも売ってます。)

その他、ドッグランやイベント会場にも行きましょう。無理に参加する必要はありませんが、社会化と運動が両立できます。威嚇性が強い犬は、最初遠くから見せるだけにして、徐々に他の犬と距離を詰めていくと良いです。慣れるまでリードも付けたままです。

### (3) 散歩とトイレをセットにしない

散歩とトイレをセットにしてしまうと、いくつか問題が発生します。まずトイレとなれば毎日決まった時間に・・・となってしまう、時間がずれてしまえばストレスになります。また、どんなに天候が悪くドシャ降りの大雨でも、家族全員カゼをひいてダウンしていても行かなくてはなりません。また、マーキング行為ですのでテリトリー意識が強くなりストレスが溜まります。そしてリーダーウォークにも障害が発生します。オシッコ・ウンチをする為に止まりますので、行動の主導権を犬が握ってしまいます。また、犬からしてみれば自分がオシッコをする素振りをする、と、「飼い主が必ず止まってくれる」と覚えてしまい段々犬が優位性を感じてきます。これもリーダーシップを失う原因の一つです。

トイレは家でさせるよう教えてあげてください。(トイレのしつけは⑩章にて)

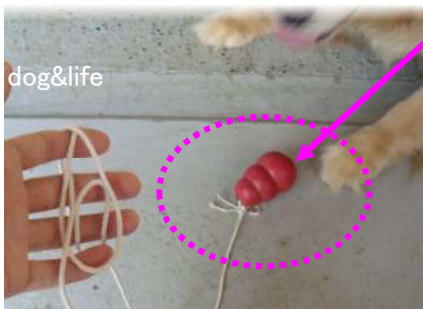
トイレを済ませた後、散歩に出るようにしましょう。ただし、人間もそうですが運動するとともによおす場合もあったり、体調も一定でない時があります。万が一に備えウンチを回収出来るグッズやオシッコしてしまった場所にかける水も持って散歩に出ましょう。（最低限のマナーは守りましょう）

（私の使っているウンチ回収グッズ。主に使うのは家でのかたづけ時で、散歩時も有効）これだと持ち運びもしやすく、毎回新しい紙やビニール袋も必要ありません。洗濯バサミみたいに、つまんでひろげ、バネの戻る力で閉じるだけです。



※補足と、おさらい

このボールですが商品名は「コング」で絶対おすすめです。



大型犬が何年も使っていますが、ビクともせず丈夫です。穴が開いていて、ヒモが付けられます。（大中小あり）形が真ん丸ではなく、表面もツルツルしているので犬がガッチリ噛んで独占しようとしても普通のボールなどよりは簡単に取り出せます。（動きも面白くて犬が飽きない。）

ヒモ付きボール遊びは単なるオススメではなく、絶対に取り入れてください。理由は以下！

- ・自由運動でストレス発散と健康維持（狭いスペースでも十分です）
- ・楽しい時間を共有することによって信頼関係と仲間意識が強くなる
- ・遊びを飼い主が主導管理することによって主従関係が構築できる！

ボールを投げる前にスワレ・マテをさせます。指示で出来たらポンポン褒めてを投げる→指示で出来なければ型で教えて褒めて投げる→投げたら回収しながらコイ・ダセの練習。

犬がヒモを噛んでどうにもならない時はヒモを外してください。その代わり犬にリードを付けて、犬の行動を管理主導してください。

「コイ」で持って来れるようになったら、ヒモ無しで遊びましょう。







## ⑧ ごはんは一日何回？ 量は？ 時間も決める？

わたし こた せいけん いちにち いっかい  
私の答えです。成犬になったら一日一回、ドライフードをそのまま。（水は常時あり）  
じかん か にんげん かぞく た お  
時間はわざと変える。人間の家族が食べ終わってから。です。

いちにち いっかい おどろ かた いちにち じゅうさき た  
一日一回に驚かれた方もいらっしゃるかもしれませんが、ほぼ一日中草を食べている  
そうしよく どうぶつ み にんげん いちにち さんかい た い  
草食動物から見れば、「人間は一日三回しか食べないの？」と言っているようなもので  
す。違いの理由は食習慣に対応した体の構造です。草食動物の歯は臼状で穀物や繊維を  
すり潰す為の形で、消化のため胃や腸に特殊なバクテリアが存在したり化学物質を生成  
でき つか ため かたち しょうか い ちょう とくしゅ そんなざい かがく ぶっしつ せいせい  
出来ます。草は栄養価が少なく消化に時間もかかるため少しずつ長時間食べ続けます。

いっぼう にんげん ざっしよく こと ぞんじ おも つぶ ため あ ぶ たい  
一方、人間が雑食である事はご存知だと思います。すり潰す為のかみ合わせ部が平らな  
は にく き さ けんし にく は と は いぬ せいぶつがく  
歯もありつつ、肉を切り裂く犬歯や肉を剥ぎ取る歯もあります。そして犬ですが、生物学  
じょう にくしよく もく じつ りっぱ ざっしよく どうぶつ やせい くさ ね えいよう もの  
上は肉食目とありますが実は立派な雑食動物で、野生でも草や根など栄養がありそうな物  
はなん た は こうぞう しょうか にくしよく どうぶつ ちか ゆうしゅう  
は何でも食べます。ただ、歯の構造・消化システムとしては肉食動物に近く、優秀なハン  
ターでありスカベンジャー（掃除屋）です。

いぬ やせい て い た もの た どうぶつ た い つ こ  
犬は野生では、手に入れた食べ物以外の動物に食べられないよう、とにかく胃に詰め込  
めるだけ詰め込み、胃の中ではほとんど消化されません。そして少しずつ腸へと出て行き  
しょうか 消化されます。（胃が大きく、腸が短い）。 つまり沢山食べた後、一日二日食べなくて  
ふつう どうぶつ えん じつれい にくしよく どうぶつ たい いっしゅうかん いちにち  
も普通なのです。（ある動物園の実例ですが、肉食動物に対して一週間に一日はわざと  
みず いっさい あた ひ つく けんこう け つや よ ながい  
エサも水も一切与えない日を作るそうです。そのほうが、健康で毛艶も良く長生きした  
そうです。） また排便の回数も減りますので、ごはんの準備の手間・排便処理の手間  
、どちらも少なくなり良い事づくめです。更に犬にとってみれば、いちにち いっかい  
ですので好き嫌いせず、残さずしっかり食べるようになります。

ちゅう せいご はんとし み ようけん ちが は は か しょうか しかん  
（注）生後半年に満たない幼犬は違います。歯の生え変わりがあったり、まだ消化器官も  
きょうじん  
強靱でないため、ドライフードならお湯でふやかし、ドッグミルクなども混ぜると良いで  
しょう。回数も一日四回程度に分けてあげます。そして半年を過ぎたら徐々に回数を減ら



し、一回の量を増やしていきます。ふやかすお湯も少なくしていき、最後には硬いドライフードのままにします。（高齢犬にも幼犬同様にしてあげましょう）。

（注）チワワなど超小型犬は低血糖になりやすいので二回の方が良いでしょう。他の犬種も「無理に一回にする」、という意味では無く、食べない場合は「一食抜いても大丈夫」という意味で捉えてください。あくまで過保護にはいけないという意味です。

さて成犬の話に戻りますが、回数は犬本来の食習慣・体の構造を考えて一回でも十分とお話しました。ではどんなタイプのフードが良いのでしょうか。製品によって多少の違いはあると思いますが、一般にウェットタイプの缶詰は水分量が約80%（残りは固形量）で、おいしいのですが一度開けると日持ちが悪く高価です。一方ドライタイプ（つぶつぶカリカリ）ですが、水分量が約8%（92%が固形量）で栄養バランスに優れ、日持ちが良く、安価で歯やあごに良いです。ただし安売り特価品はおすすめできません。安いという事は内容もそれなりで、栄養価が少なかったりバランスが悪かったり。

同じメーカー内でも種類が豊富で、幼犬用・成犬用・老犬用・妊娠／授乳期・肥満用・アレルギー用、粒の大きさの違いなど様々です。

またフードの種類に関するお話ですが、実は犬にも反抗期みたいなものがあります。犬によって時期や回数は異なるようですが、リッキーの場合生後8ヶ月くらいだったと思います。いつもと同じドライフードをまったく食べようとしませんでした。夏ではなかったのでバテてるわけでもなく、吐いてるわけでもなく、非常に元気で病気でもなさそうでした。心配になり獣医の先生に相談したところ、「反抗期だから無視していいよ」との事でした。その日は食べないフードを片付け、他の食べ物も一切与えませんでした。そして次の日、何事も無かったようにムシャムシャ食べました。この件で重要な事ですが、「食べない」あるいは「残す」からと言って特別な物を与えてはいけないという事です。もし嗜好性の高い高級フードや人間の食べ物をその時与えてしまうと、犬は学習し更に要求してエスカレートしていきますので気を付けましょう。ただし、丸二日・丸三日食べない、あるいは全て吐き出してしまう。元気が無い

場合は他の原因も考えられ、低血糖症になってしまうので獣医師さんに相談してください。また、ちょっと余談になるかもしれませんが、犬は前述した通りスカベンジャー（掃除屋）ですので落ちてる物でも何でも、なんとなく食べられそうなら飲み込んでしまいます。そして異物は吐き出すという行為を普通にします。だからと言って嘔吐を無視しないでください。硬くて鋭利な物は胃や食道を損傷しますし、中毒・炎症・潰瘍・寄生虫など病気の可能性もあるので注意してください。勿論、犬の口が届く場所に絶対物を置かないでください。他には、主に幼犬時に多いですがウンチに混じって半透明のゼリー状の物と微量の血がある時がありますが、これは腸の粘膜で不要になった部分がウンチと一緒に排出されるもので異常ではありません。ただし、血の量が多かったりウンチの度にそうなる様なら獣医師さんに相談してください。

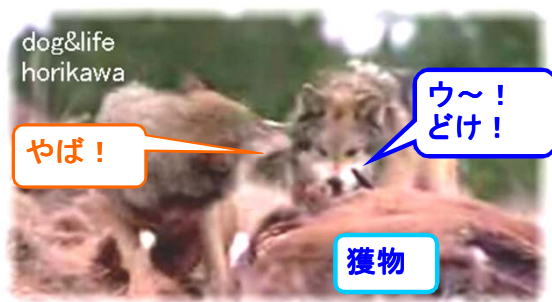
次にフードの量ですが、どれくらいが適切でしょうか。まずウンチの状態を参考にしましょう。ウンチにつながりがなく、コロコロと途切れた感じの場合は量が少ないので増やしましょう。反対に量が多い場合は、ウンチがやわらか過ぎて指でつまみ上げられないです。指でつまみ上げられ、ある程度つながった状態ならフードの量は適切と言えるでしょう。（特にミックス犬は標準体重が分からないので）。また純血種であれば、獣医師さんに標準体重を聞いてそれを目安にするのも良いでしょう。他に見分ける方法としては、犬を上から見たときに胸の幅より下腹部が広いなら太り過ぎです。胸の幅より下腹部が少しくびれているのが正しいです。

前述した通り犬はハンターでありスカベンジャーですので、食べ物が目の前にあれば、胃に詰め込めるだけ詰め込もうとします。「すぐにたிரけてしまうからツイツイおかわり・・・」、これではメタボまっしぐらです。心臓病、糖尿病、関節への負担などなど様々な問題が発生します。皆様がしっかりコントロールしてあげてください。

ただし、太り過ぎに気づいて一気に量を半分にしたりせず、少しずつ変えていってください。また、フードを肥満犬用に変えるような場合も、前の物と少しずつ混ぜなが

ら比率を増やしていくと良いです。（敏感な犬は急な変化を嫌がったり、フードの違いで体調が変わったりする場合があります）。それから冬場は少しフードの量を増やしましょう。気温が下がるとその分、体温を維持するためにカロリーも多く必要になります。

最後にごはんの時間ですが、私は毎日変えています。30分、1時間、2時間くらいずらすこともあります。以前、時間を決めていたころは吠えたり、そわそわしていました。これもストレスを発散しようとする行為です。時間をずらすようになってからは吠える事も、そわそわする事も無くなりました。「飼い主がご飯をくれる時間」が「ご飯の時間」と理解したのです。これと関連する意味を持つ事が、人間の家族が食べた後に犬に与えるという事です。野生では順位の高い者から先に食べます。低い者が先に食べようものなら注意され追い払われます。これも順位の確認がなされる行為なのです。



そうだった  
ゴメンナサイ

そして犬が食べる前に必ず「マテ」をさせてください。これにより「人間が食べた後にもらっている」と理解します。また、食べている途中にも「マテ」をさせるとより良い服従訓練になります。

また食べる前にリーダーウォークや  
あお向けの練習をするのも  
良いことです。



（エサやオヤツで釣る・・・という意識は持たないでください）







## ◎屋内飼いでハウスは必要

私はリッキーを屋内飼っていますが、ハウスとケージがあります。普段、運動したり遊んだりする以外はその中に居させ、家の中を自由に歩かせる事はさせません。

「家がハウスなんだから、あえて犬のハウスは必要無いのでは」、と思われる方もいらっしゃると思いますが、それも犬がストレスを感じる原因なのです。なぜかと言いますとズバリ大き過ぎるのです。巣穴は自分達のテリトリーの中の、そのまた最後の砦なのです。「完璧に安全なものがいい」と思うのは当然です。では野生の巣穴を見てみましょう。入り口は狭く、目立たないよう倒木の下にあります。穴の中は薄暗くて広くはなく、立ち上がりUターン出来るだけのスペースです。「なぜもっと大きくしないのか」人間の家なら大きいほうがうれしいですが。ズバリ犬にとってこの大きさが一番落ち着くからです。この大きさが好きだからです。大きければ大きいほど、それを守るため神経も体力も使います。明らかにストレスで、他人が玄関に近づけば吠えたり、そわそわ。



ですのでハウスは例えばこんな物が良いと思います。

- 四方と天井がしっかりした壁
- 入り口が狭いか、扉式
- 立ち上がり、Uターンできる大きさ  
(大き過ぎない)



ペット用品通販サイトは後の章でご紹介します



「家は網状のケージだけだな〜」。無いより良いと思いますし、改善できると思います。  
天井、側面に木の板を付けても良いですし、ダンボール・布で覆っても良いでしょう。  
(咬んだり破いたりしないようシツケが必要ですが)。 また、「ハウスはあるけど  
大き過ぎかな〜」。これも板で仕切ったり、ダンボールで詰めても良いはずですよ。



Copyright(C)  
horipage@

私が留意したポイント

- ・屋内飼い
- ・繋留義務をクリア
- ・家の中を自由に歩き回らせない
- ・適切なハウス(前ページの通り)
- ・水がいつでも飲める
- ・トイレがいつでもできる

・人間の家族の生活が見える

「家の中で放し飼い」の問題点は前述した通りです。  
だからと言って「ハウスに閉じ込めたまま」でいい  
のか自分なりに考えてみました。犬はご存知の通り  
社会性の強い動物です。家族と行動や感情を共有し  
たいという性質もあります。それを少しでも満たし  
てやるためサークル内で動けて、周り(家族)が良く  
見えるようサークルにしました。また常時水も飲め  
、トイレもできます。動物である以上、気温・湿度

無理にハウスが入る大きなケージを買う必要はありません。

子犬の時に使ったケージ内に大きめのトイレを入れ、そのケージの柵の一面を外して、クレートハウスを針金やヒモで縛って、くっ付けて合体させれば良いのです。



ノド渴いたな〜  
いつでもお水ゴクゴク

・体調によりタイミングはどうしても固定できない

いや～  
安心！快適！



場合があります。人間はいつでも水が飲め、トイレに行ける

のに「犬はダメ」ではちょっと勝手過ぎるのでは。（勿論トイレ

のしつけもありますので次の章にて）。また、私が思う止めてほしい

飼い方もお話いたします。

屋外飼いでハウスの出入り口に扉も無く、鎖に繋がれている。という状況です。これでは

外敵がハウスの中まで何の隔たりも無く侵入出来、更に自分は鎖に繋がれ逃げられないわけ

ですから犬からすればたまったものではありません。鎖が長くても同じ事です。犬は、行動

範囲が狭いから「ストレス」ではなく、鎖で逃げられない（逃避本能が阻害される）から

「ストレス」なのです。ケージやサークルであれば繋留義務もクリア出来ますし、敵の侵入

も防げます。また万が一の事があっても、鎖に繋がれていないので逃げる事が出来ます。

その他、たまに見かけるのですがハウスがトタン製（金属鋼板の建築材）で、その上には

何も無い状況です。金属は熱伝導が良く夏の直射日光は地獄でしょう。ハウスから出ても

直射日光です。せめて屋根の上に木の板を置くとか、すだれを置くなど安価で出来るはず

です。また、出入口を板など追加し狭くするとか、扉を追加する事も出来るはずです。

以上、暮らす環境についてお話してきましたが、なぜ私がそこまでこだわるかと言います

と、以前にとっても悲しく悔しい想いをしたからです。

時々通る散歩コースに、とある犬を飼う家がありました。ハウスは屋外で、家の外壁と

道路の間にある下水の上に置いてあり鎖に繋がれていました。勿論、家族からはまったく

見えない場所で、夏はトタン製のハウスに直射日光が照りつけ、雨の日や冬は雪解け水

などが、通る車からかけられていました。半分道路上にあるようなものですので、人や

車も数十センチそばを通ります。近くを通れば吠え、唸るのも当然でしょう。「これは飼

い主に改善するよう言うべきだ」と思っていた矢先、その犬は死んでしまったのです。死因

は断定できませんが、まだ老犬ではない顔と動き、毛並みは汚れボロボロでした。救って

やれなかった悔しさと、その犬の引きつった悲しい表情が今でも忘れられません。





## ⑩トイレのしつけ

⑦章で「散歩とトイレをセットにしない」とお話しました。おさらいになりますが、まずリーダーウォークの障害になります。飼い主が主導で歩かなければいけないのに、オシッコやウンチの度に犬の主導で止まらなければいけません。また犬からしてみると、オシッコが出そうな素振りをするとか、飼い主が止まってくれる事を覚えてしまい、行動を支配しようとしてしまいます。更に散歩コースのあちらこちらにマーキングする事になりますので、テリトリーが広がり、それを守るべくストレスがかかります。権勢本能が強くなっていく原因です。そして広い家の中で放し飼いをしている場合も同じ事と言えます。

そこでまず、飼い主さんがトイレをさせたい場所（時）にさせるよう変えていきます。例えば、マテ・フセ・コイなどの「指示した行動をさせる」要領を思い出してください。犬がある姿（型）をとっている時、音とジェスチャーを結び付けて教えました。それを使えば良いだけです。リッキーもそうでした。とにかく、どこでオシッコ・ウンチしている場合でもその瞬間に（あるいは犬がオシッコやウンチの前に地面の臭いを嗅ぎクルクル回る時から）「チチチチ、チチチチ」と音を付けてやりました。それを繰り返していくと、私の合図でトイレを思った場所（時）でしてくれるようになりました。（勿論、前回トイレを済ませてから多少時間が経過しオシッコやウンチがたまった場合です）。それを覚えてくれば例えば、散歩の前に済ませる・犬を家に置いて出かける場合その前に済ませる・犬と一緒に長時間出かけたり旅行時に「今ここでトイレしてほしい」という場合助かります。

そして家の決まった場所ですよう教えるのですが、もう皆様には出来るはずです。なぜなら、「チチチチ」の合図でタイミングを教えてありますし、「コイ」がしっかり出来ていれば、トイレの場所を指差しそこへ誘導出来るからです。

ただしこれが重要なのですが、もし失敗しても決して叱らない事です。「そこで・オシッコ・ダメ」と叱った場合、キーワードが三つあり多過ぎて何が悪いのか犬には理解出来ません。また犬からしてみれば、自分のした行為はオシッコしただけですから、「オシッ



コした<sup>こと</sup>事が<sup>わる</sup>悪い」と思<sup>おも</sup>ってしまうからです。ですので失<sup>しつぱい</sup>敗<sup>むし</sup>しても無<sup>なにごと</sup>視<sup>な</sup>して、何<sup>な</sup>事も無<sup>な</sup>か  
った<sup>よう</sup>様<sup>よう</sup>にかた<sup>つぎ</sup>ずけ、次<sup>つぎ</sup>のチャン<sup>ま</sup>スを待<sup>ま</sup>ち気<sup>きな</sup>長<sup>なが</sup>に教<sup>おし</sup>えてあ<sup>もちろ</sup>げてく<sup>でき</sup>ださい。勿<sup>もちろん</sup>論<sup>で</sup>、出<sup>で</sup>来<sup>き</sup>たら  
褒<sup>ほ</sup>めてあ<sup>ほ</sup>げてく<sup>ほ</sup>ださい。※犬<sup>いぬ</sup>はケ<sup>だ</sup>ー<sup>ちよく</sup>ジ<sup>こうふん</sup>から出<sup>じ</sup>した直<sup>やす</sup>後の興<sup>き</sup>奮<sup>ふん</sup>時<sup>じ</sup>にトイ<sup>と</sup>レ<sup>れ</sup>をし<sup>し</sup>易<sup>やす</sup>い<sup>い</sup>です！

それから、飼<sup>か</sup>い主<sup>ぬし</sup>さん<sup>は</sup>マ<sup>は</sup>メ<sup>め</sup>にトイ<sup>と</sup>レ<sup>れ</sup>をキ<sup>き</sup>レ<sup>れ</sup>イ<sup>い</sup>にする<sup>こと</sup>事<sup>じ</sup>が重<sup>じゅう</sup>要<sup>よう</sup>です（特<sup>とく</sup>に教<sup>おし</sup>えてい<sup>い</sup>る  
初<sup>しよ</sup>期<sup>だん</sup>段<sup>かい</sup>階<sup>かい</sup>）。リ<sup>じつ</sup>ッ<sup>れい</sup>キー<sup>き</sup>の実<sup>とき</sup>例<sup>どき</sup>です<sup>わたし</sup>が、時<sup>とき</sup>々<sup>どき</sup>私<sup>わたし</sup>がリ<sup>リ</sup>ッ<sup>ッ</sup>キー<sup>キー</sup>のし<sup>した</sup>たオシ<sup>お</sup>ッ<sup>ッ</sup>コ<sup>こ</sup>を<sup>か</sup>た<sup>ず</sup>け<sup>た</sup>た  
後<sup>あと</sup>に、ま<sup>また</sup>た<sup>すぐ</sup>リ<sup>リ</sup>ッ<sup>ッ</sup>キー<sup>キー</sup>がオシ<sup>お</sup>ッ<sup>ッ</sup>コ<sup>こ</sup>を<sup>する</sup>時<sup>とき</sup>が<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>す。な<sup>な</sup>ぜ<sup>か</sup>と<sup>い</sup>い<sup>ま</sup>す<sup>と</sup>、実<sup>じつ</sup>は<sup>さ</sup>き  
に<sup>わたし</sup>私<sup>わたし</sup>が<sup>か</sup>た<sup>ず</sup>け<sup>た</sup>たオシ<sup>お</sup>ッ<sup>ッ</sup>コ<sup>こ</sup>は<sup>リ</sup>ッ<sup>ッ</sup>キー<sup>キー</sup>が<sup>し</sup>て<sup>から</sup>だ<sup>い</sup>ぶ<sup>じかん</sup>時<sup>た</sup>間<sup>かん</sup>が<sup>経</sup>て<sup>い</sup>て、<sup>き</sup>気<sup>づ</sup>付<sup>つ</sup>い<sup>て</sup>な  
な<sup>な</sup>か<sup>っ</sup>た<sup>の</sup>です。リ<sup>じぶ</sup>ッ<sup>ん</sup>キー<sup>き</sup>は<sup>じぶ</sup>分<sup>ぶん</sup>が<sup>オ</sup>シ<sup>し</sup>ッ<sup>ッ</sup>コ<sup>こ</sup>を<sup>し</sup>て<sup>汚</sup>れ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>場<sup>ば</sup>所<sup>しょ</sup>に<sup>も</sup>う<sup>い</sup>ち<sup>ど</sup>度<sup>ど</sup>オシ<sup>お</sup>ッ<sup>ッ</sup>コ<sup>こ</sup>  
を<sup>し</sup>た<sup>く</sup>な<sup>か</sup>っ<sup>た</sup>の<sup>の</sup>です。だ<sup>だ</sup>か<sup>ら</sup>私<sup>わたし</sup>が<sup>キ</sup>レ<sup>い</sup>に<sup>し</sup>た<sup>後</sup>、<sup>あ</sup>と<sup>が</sup>ま<sup>ん</sup>我<sup>が</sup>慢<sup>まん</sup>し<sup>て</sup>い<sup>た</sup>たオシ<sup>お</sup>ッ<sup>ッ</sup>コ<sup>こ</sup>を「<sup>ま</sup>待<sup>まち</sup>て  
ま<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>」と<sup>ば</sup>か<sup>り</sup>に<sup>し</sup>た<sup>の</sup>です。そ<sup>そ</sup>の<sup>こ</sup>事<sup>こと</sup>か<sup>ら</sup>も<sup>わ</sup>分<sup>わ</sup>か<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>です<sup>が</sup>、<sup>は</sup>な<sup>が</sup>放<sup>はな</sup>し<sup>飼</sup>い<sup>い</sup>に<sup>す</sup>る<sup>と</sup>キ<sup>き</sup>レ<sup>い</sup>  
で<sup>にお</sup>臭<sup>くさ</sup>い<sup>が</sup>強<sup>つよ</sup>く<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>残<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>な</sup>い<sup>い</sup>家<sup>いえ</sup>中<sup>ちゅう</sup>あ<sup>ち</sup>こ<sup>ち</sup>に<sup>し</sup>て<sup>し</sup>ま<sup>う</sup>の<sup>の</sup>です。一<sup>い</sup>っ<sup>ぱ</sup>ん<sup>で</sup>き<sup>き</sup>の<sup>ト</sup>イ<sup>い</sup>レ<sup>れ</sup>の<sup>し</sup>つ<sup>け</sup>  
方<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>の<sup>な</sup>か<sup>で</sup>、よ<sup>よ</sup>く「オシ<sup>お</sup>ッ<sup>ッ</sup>コ<sup>こ</sup>の<sup>にお</sup>臭<sup>くさ</sup>い<sup>を</sup>残<sup>のこ</sup>す<sup>ほう</sup>が<sup>い</sup>い<sup>い</sup>です」と<sup>か</sup>、<sup>にお</sup>臭<sup>くさ</sup>い<sup>の</sup>ス<sup>ス</sup>プ<sup>る</sup>ー<sup>で</sup>  
し<sup>し</sup>つ<sup>け</sup>る<sup>グ</sup>ズ<sup>ズ</sup>な<sup>ど</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>が</sup>、<sup>わたし</sup>私<sup>わたし</sup>が<sup>おも</sup>う<sup>に</sup>は「<sup>まち</sup>間<sup>かん</sup>違<sup>ちが</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>」と<sup>ま</sup>で<sup>は</sup>い<sup>い</sup>た<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>  
せ<sup>ん</sup>が「<sup>ふ</sup>不<sup>ふ</sup>要<sup>よう</sup>です」と<sup>い</sup>い<sup>て</sup>お<sup>お</sup>き<sup>ま</sup>す。（<sup>しょく</sup>食<sup>ふん</sup>防<sup>ぼう</sup>止<sup>し</sup>シ<sup>シ</sup>ロ<sup>ろ</sup>ッ<sup>ッ</sup>プ<sup>ぷ</sup>な<sup>ど</sup>も<sup>き</sup>効<sup>き</sup>き<sup>ま</sup>せ<sup>ん</sup>）

最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>にトイ<sup>お</sup>レ<sup>お</sup>の<sup>お</sup>大<sup>か</sup>き<sup>さ</sup>・<sup>か</sup>た<sup>ち</sup>形<sup>が</sup>です<sup>が</sup>、犬<sup>いぬ</sup>は<sup>にん</sup>人<sup>げん</sup>ほ<sup>ど</sup>器<sup>き</sup>用<sup>よう</sup>に<sup>すわ</sup>座<sup>すわ</sup>っ<sup>た</sup>り、しゃ<sup>しゃ</sup>が<sup>が</sup>ん<sup>だ</sup>り<sup>し</sup>て  
ピ<sup>ぴ</sup>ン<sup>ん</sup>ポ<sup>ポ</sup>イ<sup>い</sup>ン<sup>ん</sup>ト<sup>と</sup>の<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>位置<sup>ち</sup>に<sup>お</sup>シ<sup>し</sup>ッ<sup>ッ</sup>コ<sup>こ</sup>出<sup>で</sup>来<sup>き</sup>ま<sup>せ</sup>ん。あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>ち</sup>小<sup>こ</sup>さ<sup>い</sup>い<sup>も</sup>の<sup>や</sup>形<sup>が</sup>が<sup>ふ</sup>く<sup>ざ</sup>つ<sup>つ</sup>複<sup>た</sup>雑<sup>さ</sup>で<sup>た</sup>高<sup>た</sup>さ<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>る  
物<sup>もの</sup>は<sup>て</sup>き<sup>せ</sup>つ<sup>つ</sup>適<sup>お</sup>切<sup>も</sup>で<sup>な</sup>い<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>ま</sup>す。

メ<sup>め</sup>ッ<sup>ッ</sup>シュ<sup>しゅ</sup>カ<sup>か</sup>バ<sup>ば</sup>ー<sup>付</sup>の<sup>お</sup>大<sup>お</sup>き<sup>め</sup>で<sup>ガ</sup>ッ<sup>ッ</sup>チ<sup>ち</sup>リ<sup>り</sup>し<sup>た</sup>た  
物<sup>もの</sup>を<sup>え</sup>ら<sup>え</sup>ん<sup>で</sup>く<sup>だ</sup>さ<sup>い</sup>。理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>は<sup>ふ</sup>た<sup>た</sup>つ<sup>つ</sup>です。

ま<sup>ま</sup>ず、トイ<sup>き</sup>レ<sup>ゆう</sup>シ<sup>すい</sup>ー<sup>せい</sup>ト<sup>せい</sup>は<sup>吸</sup>水<sup>すい</sup>性<sup>せい</sup>の<sup>ポ</sup>リ<sup>り</sup>マ<sup>ま</sup>ー  
な<sup>な</sup>ので<sup>いぬ</sup>犬<sup>いぬ</sup>が<sup>イ</sup>タ<sup>た</sup>ズ<sup>ず</sup>ラ<sup>ら</sup>で<sup>食</sup>べ<sup>て</sup>し<sup>ま</sup>う<sup>と</sup>、

体<sup>たい</sup>内<sup>ない</sup>で<sup>ぼ</sup>う<sup>ち</sup>ち<sup>ょう</sup>膨<sup>き</sup>張<sup>けん</sup>し<sup>て</sup>危<sup>いぬ</sup>険<sup>けん</sup>です。そ<sup>そ</sup>れ<sup>か</sup>ら、犬<sup>いぬ</sup>は「<sup>たか</sup>高<sup>たか</sup>い<sup>・</sup><sup>すべ</sup>滑<sup>すべ</sup>る<sup>・</sup><sup>しな</sup>し<sup>な</sup>る<sup>・</sup><sup>ズ</sup>ズ<sup>ズ</sup>レ<sup>れ</sup>ル」足<sup>あし</sup>場<sup>ば</sup>が<sup>き</sup>ら<sup>ら</sup>い  
です。た<sup>た</sup>だ<sup>た</sup>単<sup>たん</sup>に<sup>ト</sup>イ<sup>い</sup>レ<sup>い</sup>シ<sup>い</sup>ー<sup>ト</sup>の<sup>み</sup>が<sup>お</sup>置<sup>お</sup>い<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>と</sup>、<sup>すべ</sup>滑<sup>すべ</sup>っ<sup>た</sup>り<sup>ズ</sup>ズ<sup>ズ</sup>レ<sup>れ</sup>たり<sup>して</sup>犬<sup>いぬ</sup>が<sup>い</sup>や<sup>や</sup>が<sup>る</sup>  
の<sup>の</sup>です。







## ⑪ちょっとした変なクセも笑ってられない

テレビの動物番組で、おもしろペットとしてこんな場面を目にする事があります。その場でクルクル回ったり、自分の尾を追いかけたり。また二本足で立ち上がって人間に抱き付いてくる。それを見たテレビの出演者達は「おもしろ～い」、「かわいい～」とコメントします。私のコメントは「かわいそう」です。

まず、クルクル回る、自分の尾を追いかける、同じ場所を行ったり来たり、ピョンピョン跳ねる。これらの原因はストレスの可能性大です。その要因は、一つかも二つかも、あるいは沢山あるかも知れません。それらは今まで本書の中でご紹介してきたものです。リーダーシップが取れていない、運動不足、毎日決まった時間に同じ事をする、屋内飼いでハウスが無い、などなど様々でしょう。また、ストレスがひどくなると自分の足やシッポを咬んだり、毛をむしったりする場合があります。ただ、アレルギーや寄生虫などが原因の場合もありますので、身体的に異常が見られる場合は獣医師さんに相談してください。

また「二本足で立ち上がり人間に抱き付いてくる」ですが、お気付きの方もいらっしゃると思いますが、支配行為の可能性もあります。《あお向け固め》の章でご紹介したオオカミの写真そのものです。上位が下位の者に覆い被さるのです。犬からしてみれば「お前は俺より下位か?～」という態度です。それを「かわいい～。ヨシヨシ。」などと受け入れてしまったら・・・結果はご存知とお思います。

他によくあるクセとしては、オシリを地面にこするようにして前足だけで歩く行為です。この原因としては、一番多いのが肛門囊という肛門に臭いのでる囊（袋）のような所があり、溜まって一杯になると痒くなるのでこのような行為をします。これを家の中でされると、家も犬も臭くなります。一週間に一回くらい肛門囊をしばってやるといいです。肛門の周り直径3～5cmくらいを指でつまみ出すように、ゆっくりと数回しばってください。素手ではなく、ティッシュや布をかぶせてすると良いです。また、この行為があまりにも頻繁で、肛門囊をしばってもやめない場合や腫れがあるようだと感染症なども考えられます

ので獣医師さんに相談してください。また、しぼり方が分からない場合も予防接種などで病院に行った際に聞くと、やり方を教えてくれます。

その他、普段の体のケアですが、《あお向け固め》を利用して体中を触り・見て、異常が無いかが日常的にチェックしたり、春先から初夏にかけフィラリアの検査、冬前の混合ワクチン接種はするようにしています。その際、先生が体全体を診てくれるので半年に一回は健康診断をする事になります。（狂犬病予防接種が年一回接種義務付けなのはご存知だと思いますが。{新しく犬がきたら各市町村に蓄犬登録が必要です。}）あと爪切りですが、ほぼ毎日外を散歩する犬には不要です。と言いますか、切らないほうが良いです。なぜなら私が失敗してしまったからです。ある日、1ミリも切ってなかったのですが血がにじんできて、段々血が多くなり最後には心拍に合わせて「ピュー、ピュー」と噴出してきました。リッキーは平気だったのですが、私はパニックになってしまい病院の先生に「すぐ行きます！！」。到着すると先生は何事もなかったかのようにすぐ止めてくれて、「外を散歩してるんだったら、自然に摩耗するから切らないほうがいいよ」。「・・・早く言ってくれ～！ 専用の爪切りも買ったのに～！」（笑い）。

また余談ですが、真夏の暑い日中は水をガブ飲みさせないほうが良いです。ある猛暑の年、バテてしまったみたいで水を少し飲んでもすぐ吐いてしまいました。それ以来、水は皿ではなく、ハウスの写真でご紹介したように少しずつ水が出るタイプのボトルに変えました。それと大変驚いたのですがリッキーはその年以降、真夏の暑い日中はほとんど水を飲まなくなり、涼しい朝や夕方に水をグビグビ飲むようになったのです。犬の学習能力や適応力はすごいですね。しかし、犬は基本的に寒さには強いですが、暑さに弱いです。特に北欧などで創出された犬種がそうです。ハウスの環境を考えたり、被毛のカットも私はします。また真夏の日中は散歩しないほうが良いでしょう。熱中症や肉球のヤケドもありえます。





## 用品サイト・犬の留守番時の気晴らし

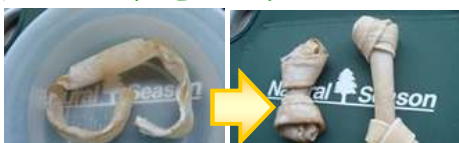
首輪・迷子札・リード・雨具・コング・ウンチ回収グッズ・ハウス・ケージなど、愛犬と暮らすために必要な用品をご紹介します。ホームページです。

<http://hobby-life.org/>

↑クリックしてください↑



犬の留守番時の気晴らし、ストレス解消、歯とアゴの発達維持、歯磨き・・・これらを同時に解決してくれるのが、骨型皮ガムです。安価で安全でリサイクルまで出来ます。コングなどにオヤツを詰める人がいますが、体重のコントロールや毎日の準備は大変。また破壊される度に高価なおもちゃを買う人もいますが、犬の要求に合わせていたらキリが無いですし、その態度は明らかに従属的になってしまいます。（しつけ上ダメ）。骨ガムが一番経済的で、安全、簡単、歯とアゴにも良いです。犬は捕食動物の本能から破壊を好みます。小動物を捕らえたら骨まで砕いて食べます。だから骨ガムを与えると両端の結び目をすぐに解いてしまうのですが、そうすると犬は飽きてしまいます。でもその度に買いに行くのも面倒だし経済的に良くないです。ここで裏技ですが、人間の手でビクともしない結び目をなぜ犬は簡単に解けるのかというと、骨ガムは唾液で柔らかくなるからです。つまり水に漬けておけば柔らかくなり、軽くこすれば汚れも落ち、もう一度結べば良いのです。3時間くらい漬けると柔らかくなりますので汚れを落とし、両端を軽く結んで後は固くなるまで自然乾燥させて完成。だから2個をローテーションして使えばしばらくは新品は買わなくてOKです♪



水に漬ける

左は再利用 右は新品

※おすすめしたくないのは、ゴム製・布製  
・プラスチック製のおもちゃです。破片を飲み込むので危険です。



## 子犬のしつけ解説編

子犬は生後1か月までには元気に歩き回り、親犬を噛んだり兄弟ゲンカも始まってお互い噛み合ったりします。その中で親犬は子犬を噛んで返したり、あお向けをして叱ります。また兄弟を噛めば怒って噛み返されたりします。そういう経験を何度も何度も積んで学んで初期の社会化を果たしていきます。

しかし、実際には子犬の知能はとても低く、数回経験しただけでは本当に理解できません。そして売られるために、その状態のまま生後2・3か月で親兄弟と引き離されショップのショーケースに閉じ込められます。そうなれば当然甘噛みの癖は抜けていませんので、今度は人間家族が親犬のように毅然と淡々と教えて続けてあげないといけません。

そして、子犬が新しい家に来て、そこでチャホヤされれば当然子犬はそれが当たり前の環境と学習し、主従関係を誤解し、家に来て数日後慣れてきたら噛む吠える唸る・・・という行動を見せるようになってきます。子犬が我が家に来れば嬉しくてたまりませんが、特に最初の数日間は、かまわいようにして犬の中に悪い基準値を作らないようにしないといけません。

子犬は可愛いです。そして教えてもなかなか覚えてくれないので、ついつい躰が疎かになってしまのですが、生後1歳までが非常に重要で柔軟な社会化期なんです。一番難しく同時に一番大事な時期なので大変ですが、ご理解され頑張ってくださいたいのです。子犬が家にやってきた瞬間から、躰も関係作りも始まっているのです。

さて、「子犬が家にやってきたら躰は始まっている」とお話ししましたが、今まで本書やホームページで解説したことを全て子犬に実施・・・というわけにはいきません。子犬は知能がとにかく低いというお話はしましたが、特に「物や道具」に対して理解力がまったくありません。気を付けていただきたいのはリーダーウォークです。

子犬はとにかく知能が低く経験がありません。動くリードや首輪を、まるで別の生き物であるかのように見ます。怖がり嫌がりますので、無理やり付けずに段階を作って慣れさせましょう。

まずは数日かけて、ケージの前に何気なく置いたり実際に触れさせながら、見せ・臭いを嗅がせ・噛ませたりしながら慣れさせます。数日それをしてたら付けましょう。

そして付けても、いきなりリーダーウォークではなく、人間はとりあえずリードを持たないでブラブラしたままで良いので、そのままボール遊びをしたり、ゴハンを食べさせるなどして



ください。そうやって、<sup>たの</sup>楽しいことをしながら・・<sup>き まぎ</sup>気を紛らわしながら<sup>すこ</sup>少しずつ<sup>こわ</sup>怖さを克服<sup>こくふく</sup>させていってください。

そして同じことが散歩にも言えます。2・3か月の子犬が家に来てすぐリードを付けてスラスラ散歩は不可能です。<sup>こわ</sup>怖い事・<sup>けいけん</sup>経験の無い事が多すぎてパニックになります。ですので、まずは首輪とリードは先ほどお話したように慣れさせてください。そして、<sup>そと</sup>外の世界<sup>せかい</sup>にも徐々に慣れさせます。

まだ予防接種が終わっていなくても、<sup>そと</sup>外の世界<sup>せかい</sup>を見<sup>み</sup>せることはしておきましょう。犬の<sup>せいご</sup>生後半年<sup>はんねん</sup>以内<sup>い</sup>には<sup>きちよう</sup>貴重な<sup>しゃかい</sup>社会化<sup>か</sup>期<sup>き</sup>です。<sup>むだ</sup>無駄に<sup>す</sup>過ごしてはいけませんし、<sup>たにん</sup>他人や犬<sup>いぬ</sup>に吠える<sup>ほ</sup>問題<sup>もんだい</sup>にも<sup>はってん</sup>発展してしまいます。

首輪とリードに慣れてきたら、家の玄関先でノンビリしながら行きかう人や動物・自転車や車を見せましょう。風で揺れる木の葉っぱやお店の旗でも何でも良いので見せましょう。

ただし、<sup>たにん</sup>他人や犬<sup>いぬ</sup>に<sup>せつしよく</sup>接触させてはいけないのと、<sup>いぬねこ</sup>犬猫の糞尿<sup>ふんによう</sup>に<sup>せつしん</sup>接近したり<sup>くさ</sup>草むら<sup>い</sup>に入れたり<sup>げんきん</sup>は厳禁<sup>げんきん</sup>です。もちろん<sup>よぼう</sup>予防接種<sup>せつしよく</sup>後も、<sup>いぬねこ</sup>犬猫の糞尿<sup>ふんによう</sup>には<sup>ちか</sup>近づけてはいけませんし、<sup>にんげん</sup>人間や<sup>いかく</sup>威嚇<sup>いかく</sup>の無い犬には<sup>せつきよくてき</sup>積極的に<sup>あ</sup>会わせて<sup>しゃかい</sup>社会化<sup>か</sup>はさせてください。<sup>きゆう</sup>（<sup>せつしよく</sup>急に<sup>せつしよく</sup>接触<sup>せつしよく</sup>させないで<sup>じょじょ</sup>徐々に<sup>じょじょ</sup>慣れさせ様子を見ながら距離を近づけていく）。

よくスリングバッグに入れたり抱いて散歩する人がいますが、例えばマンションなどで玄関前でウロウロできない・・など環境が合わない場合は、良い場所までそれで連れて行って良いのですが、良い場所に着いたら、犬には<sup>じぶん</sup>自分の足<sup>あし</sup>で<sup>じめん</sup>地面<sup>だ</sup>に<sup>たて</sup>立たせてください。

そうしないと、いつまで経っても怖がったり自分の足で歩くのを億劫がったりする癖がついてしまいます。それと抱っこ癖は付くと良くないので、緊急時以外は抱っこせず必要な移動は、いらなくなったカバンでもリュックサックでもエコバッグでも何でも良いです。（お金を出して買う必要なし）。

<sup>だ</sup>抱っこは<sup>かんけい</sup>関係を<sup>ごかい</sup>誤解<sup>いぬ</sup>する犬<sup>いぬ</sup>がいます（<sup>ひざ</sup>膝<sup>の</sup>に乗せる事も同じ）。犬同士では<sup>こと</sup>体を<sup>おな</sup>合せる時、<sup>いぬどうし</sup>上位の犬<sup>からだ</sup>が<sup>あわ</sup>下位の犬<sup>とき</sup>の体<sup>あわ</sup>の上に<sup>うへ</sup>自分の<sup>あし</sup>アゴや前足<sup>の</sup>を乗せてきます。マウンティングもそうですが<sup>たいい</sup>体位<sup>かんけい</sup>が<sup>あらわ</sup>関係を表しているのです。

余談ですが、犬に「意味なく声掛けナデナデ」も従属的です。下位の犬は上位やリーダーにすり寄ってナメナメしてきますが、その舐める行為と撫でる行為が類似しているので誤解されやすいのです。褒める時は音の関連付けをしながら、良い型を取らせながら毅然とポンポンと犬の肩をたたくように褒めると良いです。<sup>な</sup>何気ない<sup>せつ</sup>接し方<sup>かた</sup>や<sup>たいど</sup>態度<sup>ようちゆうい</sup>は要注意<sup>ようちゆうい</sup>です。



## 最後に大切な おさらい

今まで失敗してきた手法や先入観は全て忘れ、素直に何度も本書とホームページを読み返してください。その度に新しい気付きがあります。犬の知能には限界があります。犬の目線まで下げてあげ（特に幼犬時）、シンプルに教えないと犬には理解できないのです。そして一方、相手の態度や自信、従属性・主導性を見抜く感覚がとても鋭いのです。常にかまったり、シロシロ見たりナデナデ声もかける、好きに散歩させる・・従属的な態度は一切見せてはいけません。見下されると同時に犬にもストレスになっているのです。態度・リーダーウォーク・あお向け・ヒモ付きボール遊びで信頼関係・主従関係を積み上げてください。型と音で現行犯で教えてください。何度も何度も毎日毎日少しずつ根気よく教えてあげてください。そうしないと犬の知能では理解できないのです。そして注意点ですが、頑張りすぎる事が逆効果になる場合も多いのです。目標を定めたり理想が高すぎると、そのギャップに苦しみ感情的に怒ったり体罰になってしまうのです。これは仕事が忙しい方も同じで、普段接する時間が短い分、時間がある時に強引に長時間無理をしてしまうのです。先が見えないと不安になるお気持ちは良く分かります。しかしそれが逆効果になってしまいます。興奮は犬に伝わります。自信が無いと犬は見抜きます。一喜一憂せず継続する！ 結果が出るまで継続する！・・その精神力も犬は感じています！以上、最後までご一読いただき本当にありがとうございました。本書の内容が、皆様の愛犬のしつけに少しでもお役に立てれば幸いです。ご家族と愛犬が本当の絆で結ばれ、楽しく充実した毎日をお過ごしいただけるよう願っております。



●不安になられたらいつでもメールしてください（^-^）

 販売用ホームページ

 Q&A事例集ホームページ

<http://dog-life-big.biz/>

<http://osiete-wanwan.com/sitemap.html>

メールサポートをご希望の方は↓こちらのご案内に沿ってご依頼ください

<http://dog-life-big.biz/maillaport.html>

### 著作権

本書は著作権法により保護されております。本書ならびに書面上の一部につきましても、無断での複写・引用・転送・譲渡や再販売を固く禁じます。また同行為がありました場合は、損害賠償請求の対象となります。

### 免責事項

本書の内容により、もし万が一のトラブルがありました場合は、ご利用者様のご判断・自己責任につき、当方は免責となりますのでご了承願います。

本書内容のなかで生物学上の分類や性質につきまして、皆様の知識やお手持ちの資料・文献と相違がある可能性があります。これは国内外・著者の見解等の相違によるものであり、ご了承願います。